WISENET

Network Camera

オンラインヘルプ

XNB-6000/XNO-6080R
XNO-6080RA/XNO-6080RS
KNB-2000/KNO-2080RN

ライブ画面

カメラで撮影しているライブ映像を確認したり、画面キャプチャー等の様々な機能を制御することができます。画面上の🖵ボタンをクリックすると、ライブ画面が表示されます。

上のボタンをクリックすると、ライブ画面や再生画面、設定画面に移動することができます。

- 🖵(ライブ) : カメラで撮影中のライブ画面を確認して、様々なカメラ機能を制御することができます。
- ▶(プレーバック) : SDカードまたはNASに録画しておいた映像を検索して再生することができます。
- ⚙(設定) : カメラの詳細設定を変更することができます。

参考事項

- Chromeでウェブビューアに接続すると、再生画面の機能を最も安定した状態で使用することができます。
- ライブページで映像を再生する場合、下記の条件で画面に残像が表示されることがあります。
  - Profileを変更するときに解像度が変わる場合
  - Profileを変更するときにネットワーク遅延発生でデータ受信が遅れる場合
  - ウェブブラウザのサイズ変更&位置を移動する場合

アイコン

ライブ画面の下にあるアイコンは下記の機能をします。
特定ブラウザまたはCodecでは一部の機能が動作しない場合があります。

アイコン	機能説明
⚟ ビデオ設定	現在のライブ画面に適用されたProfileを確認したり、Profileを変更することができます。また、ライブ画面のディスプレイ設定を変更することができます。
✣ PTZ	カメラRS-485かRS-422ポートに接続されたパン/チルトレシーバーでカメラのパン/チルト/ズーム動作を制御することができます。[設定]>[PTZ]>[外部PTZ]ページで設定したプリセットの位置に移動するか、スウィング、グループ、ツアー、トラッキングを開始して中止することができます。
ⓘ 状況	Profileごとに接続情報や現在カメラに接続したユーザーの情報を確認することができます。
⛶ 全画面	ライブ画面を全画面に表示することができます。元のウェブブラウザのサイズに戻るためには、全画面モードで⛶ボタンをもう一度クリックするかキーボードの[ESC]キーを押します。

アイコン	機能説明
サイズオプション	一度クリックするたびに、下記のモードに変更されます。 • ▣(適合)：カメラ映像をウェブブラウザのサイズに合わせて表示します。 • ▣(オリジナルサイズ)：カメラ映像の実際解像度サイズに表示します。 • ▣(アスペクト比)：カメラ映像解像度の縦横比を維持したままライブ画面をズームインまたはズームアウトしてウェブブラウザのサイズに表示します。
📷 キャプチャー	ライブ画面をキャプチャーしてPNG画像ファイルに保存することができます。キャプチャーした画像ファイルは、各ブラウザのデフォルト保存パスに保存されます。
REC 録画	ライブ画面を手動で録画してPCに保存することができます。保存ボタンをクリックして録画を開始し、もう一度クリックすると録画を止めます。録画ファイルは.aviタイプで保存することができます。ブラウザによってブラウザのデフォルト保存パスに保存されるか別名で保存からファイルパスを設定することができます。
⬚ ピクセル数	ライブ画面からマウスで選択したエリアの映像ピクセル数を確認することができます。ピクセル数ボタンをクリックした後、エリアをマウスでクリックしてドラッグします。選択したエリアが表示され、映像のピクセル数が表示されます。ピクセル数ボタンをもう一度クリックすると、ピクセル数機能を終了します。
🎤 マイク	マイク機能を使用することができます。マイク機能を使用するためには、該当のProfileに[音声入力]機能を有効にする必要があります。ビデオ入力機能を有効にするには、[設定]>[Basic]>[ビデオprofile]>[音声入力]で[On]を選択します。
🔔 アラーム出力	選択したいアラーム出力No.をクリックすると、設定した情報でアラームを出力します。アラームは、[設定]>[イベント]>[アラーム出力]ページで設定することができます。アラーム出力数は、カメラごとに異なります。
🔊 スピーカー	ライブ画面のオーディオ音量を調整することができます。 🔊 ボタンをクリックしてオーディオを有効に設定してから、音量を調整することができます。

映像をキャプチャーするには、

- キャプチャーするシーンでキャプチャーアイコン(📷)をクリックします。
- キャプチャーを保存すると、通知メッセージが表示されます。各ブラウザの保存パスにキャプチャー画像を保存します。

Windows 7以上のInternet Explorerブラウザでキャプチャーできない場合、Internet Explorerブラウザを管理者権限で実行してください。

映像を録画するには、

- 保存アイコン(REC)をクリックします。
- 手動録画を終了するには、もう一保存アイコン(REC)をクリックします。

ユーザーPCに手動録画を.aviファイルで保存することができます。パスを指定して映像を保存してください。

全画面に切換するには、

- 全画面アイコン(⛶)を選択します。ビューア画面が全画面に変更されます。
- 全画面モードを終了するには、もう一度全画面アイコン(⛶)をクリックするかキーボードの[Esc]キーをクリックします。

オーディオを使用するには、

- オーディオアイコン(🎤)をクリックします。
- 音量調整バーでオーディオ音量を調整します。

オーディオ動作中、PCのオーディオジャックを接続・分離するときに音が出ない場合、オーディオアイコン(🎤)をクリックして有効にしてください。

スピーカーを使用するには、

- スピーカーアイコン(🔊)をクリックします。

ピクセル数をカウントするには、

- ピクセル数アイコン(⬚)をクリックします。
- 映像の上にマウスをドラッグしてエリアを設定します。そのエリアのピクセル数が画面に表示されます。

ビデオ設定

Profile

現在のライブ画面に適用されたビデオprofile名とインフォメーションが表示されます。[Profile]ドロップダウンボタンを押すと、現在のWebviewerで使用できるビデオprofileリストが表示され、適用したいビデオprofileを選択すると、ライブ画面にすぐ適用されます。選択したビデオprofileの解像度、Codec、フレームレート、ターゲットビットレートを確認することができます。

ディスプレイ

ライブ画面のコントラスト、明るさ、シャープ、カラーレベルを設定することができます。設定値を入力すると、ライブ画面にすぐ適用されます。

状況

プロファイルへのアクセス

現在、設定されたすべてのProfileのアクセス状況を確認したり、アクセス中の現在ユーザーの状況を確認することができます。[プロファイルへのアクセス]では、設定されたすべてのProfile名、Profile別の実際ビットレート(kbps)と適用されたビットレート

(kbps)、Profile別の実際フレームレート(fps)と適用フレームレート(fps)、Profile別のATC(%)、Profile別のユーザー数を確認することができます。

現在のユーザー

現在、カメラにアクセスしたすべてのユーザーのユーザー別に適用したProfile、ビットレート(kbps)、ネットワーク接続ステータス、IPアドレスを確認することができます。

プレーバック

SDカードまたはNASに保存された録画映像を読み込んで再生することができます。画面上の▶ボタンをクリックすると、録画画面が表示されます。再生画面の下にタイムバーが表示され、設定したスケジュールで録画された映像やイベントによって録画された映像がタイムバーに表示されます。録画映像をイベント種類や日付別に検索することができ、キャプチャーしたりPCに保存することができます。

上のボタンをクリックすると、ライブ画面や再生画面、設定画面に移動することができます。

- (ライブ) : カメラで撮影中のライブ映像を確認して、様々なカメラ機能を制御することができます。
- ▶(プレーバック) : SDカードまたはNASに録画しておいた映像を検索して再生することができます。
- ⚙(設定) : カメラの詳細設定を変更することができます。

参考事項

- 映像を再生するには、先に[ライブ]ページで映像を録画 (Monitoring.html#record)する必要があります。
- SDカードやNASに接続されていない場合、再生機能を使用することができません。
- Chromeでウェブビューアに接続すると、再生画面の機能を最も安定した状態で使用することができます。

再生アイコン

再生画面の下にあるアイコンは下記の機能をします。

アイコン	機能説明
全画面	再生画面を全画面に表示することができます。元のウェブブラウザのサイズに戻るためには、全画面モードでボタンをもう一度クリックするかキーボードの[ESC]キーを押します。
サイズオプション	• 一度クリックするたびに、下記のモードに変更されます。 (適合) : カメラ映像をウェブブラウザのサイズに合わせて表示します。 • (オリジナルサイズ) : カメラ映像の実際解像度サイズに表示します。 • (アスペクト比) : カメラ映像解像度の縦横比を維持したまま再生画面をズームインまたはズームアウトしてウェブブラウザのサイズに表示します。
キャプチャー	録画映像をキャプチャーしてPNG画像ファイルに保存することができます。キャプチャーした画像ファイルは、各ブラウザのデフォルト保存パスに保存されます。
前へ	前のフレームに移動します。

アイコン	機能説明
▶/ II プレーバック/一時停止	映像を再生したり一時停止します。
▶I 次へ	次のフレームに移動します。
再生速度	再生画面の再生速度を設定します。
🔊 スピーカー	再生画面のオーディオ音量を調整することができます。 🔊 ボタンをクリックしてオーディオを有効に設定してから、音量を調整することができます。

イベントで検索して録画映像を再生する

イベントタイプ別に録画映像を検索することができます。またカメラシステムの時間を調整して重複時間が発生した場合、重複時間に保存された映像も検索することができます。

イベントで検索して再生するには、

1. 再生画面で表示ボタンをクリックします。検索当日に録画された映像がある場合、タイムバーに表示されます。
2. イベント種類別に検索するには、タイムバーの上にある[全体] ボタンをクリックした後、お望みのイベントを選択します。
3. 重複時間に保存された映像を検索するには、重複したセクションを選択します。
4. [適用]ボタンをクリックします。検索されたイベントがタイムバーに表示されます。
5. 再生ボタンをクリックします。
6. 再生を中止するには、一時停止ボタンをクリックします。

時間で検索して録画映像を再生する

カレンダーで時間を選択して録画映像を検索することができます。
タイムバーの上にある[本日]ボタンをクリックすると、本日の日付を基準に録画映像を検索します。

時間で検索して再生するには、

1. 再生画面で表示ボタンをクリックします。検索当日に録画された映像がある場合、タイムバーに表示されます。
2. タイムバーの上にある日付をクリックした後、カレンダーでお望みの日付を選択して、開始時間と終了時間を設定します。
   - [全日]を選択すると、開始時間と終了時間が00:00:00から23:59:59に自動設定されます。
3. [適用]ボタンをクリックします。
4. 再生ボタンをクリックします。選択した時間の映像が再生されます。
   - 映像が再生中の場合、現在再生されている映像の録画時間が表示されます。
   - 映像を前、後に探索して再生速度を調整することができます。
   - 左側の矢印ボタンをクリックすると1フレーム前に移動し、右側の矢印ボタンをクリックすると1フレーム後に移動します。
   - 倍速ボタンをクリックすると1x、2x、4x、8xまたは-1x、-2x、-4x、-8xに速度を選択することができます。倍速変更で再生速度を設定することができます。
   - タイムバーでボタンの位置を動かすと、お望みの時間の映像を再生することができます。

検索された映像のバックアップ

録画された映像を.aviファイルで保存することができます。

検索された映像をバックアップするには、

1. 再生中、バックアップするシーンで[エクスポート] ボタンをクリックします。
2. バックアップ開始時間と終了時間を設定します。
3. 設定を完了した後、[適用]ボタンをクリックします。
4. 保存ポップアップが表示されたら保存パスを指定した後、[保存]ボタンをクリックします。
5. 該当セクションのデータがバックアップされます。
6. [適用]ボタンをクリックします。

ビデオprofile

ビデオprofileを追加したり削除してProfile設定を変更することができます。ビデオ解像度、フレームレート、Codecなどを「ビデオprofile」にすでに設定した後、環境と状況によってユーザーが望むProfileに変更して映像をストリームしたり再生することができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックして設定を適用してください。

PTZモードの選択

[外部PTZ]を選択すると、RS-485やRS-422ポートに接続されたレシーバーでカメラPTZを制御することができます。ウェブビューアーの左側にあるメニューツリーに[PTZ]>[外部PTZ]メニューが生成されます。
[デジタルPTZ]を選択すると、カメラPTZをデジタルで制御することになります。ウェブビューアーの左側にあるメニューツリーに[PTZ]>[デジタルPTZ]メニューが生成されます。「デジタルPTZ Profile」が適用された場合のみデジタルPTZモードが動作され、この時に解像度とビットレートが制限されます。

ビデオプロファイル接続ポリシー

Profile設定が変更された時、既存のProfileに映像を出力し続けるか変更されたProfileに映像を出力し続けるかを設定することができます。
[プロファイルの設定変更後も、接続を維持する]を選択すると、Profile設定を変更しても既存のProfile設定に映像を出力し、再度ウェブビューアーにアクセスした時、変更されたProfileに映像を出力します。Profile設定を変更して再度ウェブビューアーにアクセスするまでは、[ライブ]画面にオレンジ色の枠が表示されます。[プロファイルの設定変更後も、接続を維持する]を選択しないと、Profile設定を変更した時にすぐ変更されたProfileに映像が出力されます。

ビデオprofile

製品の使用環境と状況によってビデオのProfileを選択することができます。初期値に提供されるProfileの他に新しいProfileを追加したり削除することができます。Profile別にCodec、Profileタイプ、解像度、フレームレート、最大ビットレート、目標ビットレート、ビットレート制御、マルチキャストなどを設定することができます。

Profileリスト

初期値に提供されるProfileのリストとユーザーが追加したProfileのリスト両方とも表示されます。

ビデオprofile追加

1. [追加]ボタンをクリックします。Profileリストで新しい項目が追加されます。
2. [名前]フィールドにProfile名を入力します。Profileリストに入力した名前が表示されます。
3. [Codec]、[Profileタイプ]、[解像度]など、Profileの詳細を設定します。
4. ページの下にある[適用]ボタンをクリックします。
5. 確認ポップアップが表示されたら、[OK]ボタンをクリックします。新しいProfileが追加されます。

ビデオprofileの設定変更

1. Profileリストで詳細設定を変更するProfileを選択します。
2. [Codec]、[プロファイルタイプ]、[解像度]など、Profileの詳細設定を変更します。
3. ページの下にある[適用]ボタンをクリックします。
4. 確認ポップアップが表示されたら、[OK]ボタンをクリックします。選択したProfileの設定が変更されます。

ビデオprofile削除

1. Profileリストで削除するProfileを選択します。
2. [削除]ボタンをクリックします。
3. 確認ポップアップが表示されたら、[OK]ボタンをクリックします。選択したProfileが削除されます。

名前

Profileリストで選択したProfile名が表示されます。新規でProfileを生成する時、Profile名を入力することができます。

Codec

Profileに適用するCodecを選択します。選択したCodecタイプによって、Profile設定の詳細が異なります。

プロファイルタイプ

適用するProfileタイプを選択します。選択したProfileタイプは、Profileリストの[タイプ]カラムに表示されます。選択したCodecタイプによって表示される設定項目が異なります。

- 基本プロファイル：カメラの映像をライブにストリームする時、適用される基本Profileです。Profileリストの[タイプ]に「Default」と表示されます。
- E-mail/FTP profile：イベントが発生すると、キャプチャー画面をE-mailとFTPサーバーに伝送する時に使用するビデオProfileです。Profileリストの[タイプ]カラムに「Event」と表示されます。 [Codec]を「MJPEG」に設定した場合のみ、E-mail/FTP profileオプションが表示されます。
- 録画Profile：SDカードまたはNASに映像を録画する時、適用するProfileです。Profileリストの[タイプ]カラムに「Record」と表示されます。
- フレームレート固定プロファイル：映像のフレームレートを一定レベルで保障する時、適用するProfileです。[Codec]を[H.264]または[H.265]に設定した場合のみ、「フレームレート固定プロファイル」オプションが表示されます。

音声入力

カメラが内蔵マイクを持っているか外部マイクを接続した場合、カメラの外部音が映像に入力されるように設定することができます。
[ライブ]画面のマイクとスピーカー機能を有効にするには、[音声入力]を[有効]に選択する必要があります。

ATCモード

ATC(Auto Transmit Control)モードは、ネットワーク帯域幅の変化量によって映像の属性を変更して伝送量を調整します。伝送量の調整方法は、ATCモードによって異なります。

- 未使用：ネットワーク帯域幅が変化してもビデオ伝送量を一定維持します。
- 有効 - フレームレート制御：ネットワーク帯域幅が変化される場合、フレームレートを変更して伝送するデータ量を調整します。
- On - 圧縮制御：ネットワーク帯域幅が変化される場合、伝送するデータの圧縮率を変更して伝送するデータ量を調整します。圧縮調整する場合、画質が低くなることがあります。
- On - イベント(MD)：モーション検知イベントが設定されている場合、使用できるモードです。モーション検知イベントが発生してネットワーク帯域幅が変化する場合、フレームレートを変更してデータ量を調整します。モーションが検知されない場合、最小限のフレームだけを出力して帯域幅使用を節約します。

感度

ネットワーク帯域幅変化量の反映速度を調整します。ATC感度が最高の場合に反映速度が最も早く、最低の場合に反映速度が最も遅いです。
ATC感度は、[ATCモード]を[有効 - フレームレート制御]、[On - 圧縮制御]に選択する時のみ有効になります。

上限

ネットワーク帯域幅変化量によってビデオ伝送量を変更する時、ある程度まで属性を変更するかATCモードの上限値を設定します。ATCモードを使用しなかった時を100%と仮定すると、10～50%に値を設定することができ、設定された値の以下にはビデオ伝送量は変更されません。
この時、伝送量を減らし過ぎると画面が点滅する場合があるため、本設定値を調整して限界設定値を調整します。
ATC上限は、[ATCモード]を[有効 - フレームレート制御]、[On - 圧縮制御]に選択する時のみ有効になります。

参考事項

- ATCに対応するカメラで構成された環境でのみ、ATCを有効にすることをお勧めします。
- ネットワーク帯域幅の変化量が急激な環境ではATC感度を[最低]に設定してください。
- ネットワーク環境が不安定の場合、画面が点滅することがあります。

クロップエンコーディング

クロップエンコーディングは、全画面で選択したエリアだけを切って[Profile設定]で設定された解像度に合わせて出力します。クロップエンコーディング設定エリアより小さいサイズの解像度のみ設定することができます。現在、設定中のProfileにクロップエンコーディングを適用するには、[有効]を選択します。

トリミング領域設定

1. クロップエンコーディングを[有効]に設定した後、[エリアを設定]ボタンをクリックします。
2. [トリミング設定領域]のプレビュー画面でマウスをドラッグしてエリアを設定します。エリアを16:9比や4:3比に合わせて設定するには、それぞれ[16:9]、[4:3]を選択し、比率に関係ないエリアを選択するには、[手動]を選択します。
3. エリア設定を完了したら、[OK]ボタンをクリックします。

参考事項

- [トリミング設定領域]でユーザーが任意で範囲を指定した場合、ユーザーが指定した範囲で出力解像度と最も近い解像度に出力します。
- [映像&音声]>[カメラ設定]>[特別設定]>[DIS]設定を変更すると、トリミング設定領域が異なる場合があります。DIS設定を変更する時、クロップエンコーディングのエリアを再設定してください。

Profile設定

現在、設定中のビデオprofileの詳細を設定します。

解像度

カメラ映像の解像度を設定します。

参考事項

- 高解像度の映像を問題なくストリームするためには、Chromeでウェブビューアーにアクセスすることをお勧めします。

フレームレート

1秒当たりのフレーム数を設定します。
[映像&音声]>[カメラ設定]>[センサー]で選択したフレームレート値によって、設定できるフレームレートの範囲が異なります。

最大ビットレート

[ビットレート制御]が[VBR]の場合、映像の最大ビットレートを設定します。

ターゲットビットレート

[ビットレート制御]が[CBR]の場合、伝送する映像データの量を設定したターゲットビットレートに固定して映像を伝送します。

詳細

Profileの[Codec]を[H.264]や[H.265]に設定した場合には、すべての詳細設定項目が表示されます。Profileの[Codec]を[MJPEG]に選択した場合は、[エンコーディング優先順位]項目のみ表示されます。

ビットレート制御

映像データ量をどう調整するか設定することができます。

- CBR：固定ビットレート(Constant Bitrate)は、フルフレームのデータを一定サイズに固定して伝送するタイプです。CBRを選択すると、ターゲットビットレートを設定して伝送するデータのサイズを設定します。CBRの場合、固定的なデータサイズをもつため、全体的なシステムのデータサイズを予測しやすくて安定的にシステムを運用することができます。
- VBR：可変ビットレート(Variable Bitrate)は、フレームのデータサイズを固定せずに最大ビットレート内で映像を伝送するタイプです。VBRは、画質を維持しながら

ストレージスペースの容量や帯域幅を効率的に使用することができるが、映像が急に複雑になったり大きいモーションがある場合ネットワークに負担がかかります。

参考事項

- ビットレート制御を「CBR(固定ビットレート)」に設定してから画質優先モードを選択した場合、画面の複雑度によって設定されたビットレートで最大限に画質を保障するために実際伝送されるフレームレートが設定されたフレームレートと異なる場合があります。

エンコーディング優先順位

映像データ量がターゲットビットレートの値を超える時、フレームレートと画質中に何を優先順位としてエンコーディングするか設定します。
Profileの[Codec]を[H.264]や[H.265]に選択した場合、[フレームレート]と[圧縮]の中で選択することができます。[フレームレート]を優先順位に設定すると、フレームレートを最大限に保障するが画質は低くなることがあります。逆に[圧縮]を優先順位に設定すると、画質は保障するが抜け落ちるフレームが発生して映像が切れたり不自然になることがあります。Profileの[Codec]を[H.264]や[H.265]に選択した場合、[エンコーディング優先順位]は[ビットレート制御]を[CBR]に設定した場合のみ有効となります。
Profileの[Codec]が[MJPEG]の場合、[フレームレート]と[ビットレート]の中で選択することができます。

GOV長

GOV(Group of Video)はH.264/H.265のビデオ圧縮のための映像フレームの集合でIフレームから次のIフレームまでのフレーム集合を意味します。GOV内には、IフレームとPフレームという2タイプのフレームがあります。Iフレームは圧縮の基本となるフレームでキーフレームとも呼ばれ、完全な一枚の画像データを持つ独立的なフレームです。Pフレームは前のフレームを基準に変更された部分の情報のみを持っているため、映像データ量が少ないです。したがって、GOV長が長いほどIフレーム数は少ないため映像データ量も少なくなるし、GOV長が短いほどIフレームが多くなるため映像データ量も多くなります。GOV長の最大値は[Profile設定]の[フレームレート]によって異なります。
H.264 CodecやH.265 Codecで録画ファイルを設定した場合、GOV長はframerate/2になります。

Profile

ProfileのCodecが[H.264]の場合のみ、メニューが有効となります。Profileは圧縮する時に使用する様々な圧縮技術を組み合わせた集合とも言えます。ハンファテックウィンのカメラで対応するProfileは[Baseline]、[Main]、[High]です。BaselineでHighに行くほど圧縮性能が高くなって画質が良くなるが、圧縮する時と圧縮を解凍する時にシステムのリソースが多く使用され再生デバイスに負荷がかかります。

エントロピー符号化

エントロピー符号化は、シンタックス(Syntax)の統計を用いた可変長コーディングで無損失の圧縮タイプです。
CAVLC (Context Adaptive Variable Length Coding)とCABAC (Context Adaptive Binary Arithmetic Coding)の2タイプを提供します。但し、Baseline Profileの場合にはCAVLCタイプのみ使用できます。

- CABAC：圧縮率が高いが、データの処理過程が複雑でシステムリソースを多く使用します。

- CAVLC：CABACに比べて圧縮率が低いが、データの処理過程がシンプルでシステムリソースを少なく使用します。

Smart codec

Smart codecの使用有無を設定します。Smart codecは、映像でユーザーが好むエリアは圧縮率を減らして高画質で出力し、その他の部分は圧縮率を上げて標準画質に出力して全体の映像データサイズを減らすハンファテックウィンの独自技術です。Smart codecは[ビットレート制御]が[CBR]の時のみ有効になります。
Smart codecのROI領域は、[映像&音声]>[Smart codec]で設定することができます。

ダイナミックGOV

ダイナミックGOV機能を現在設定中のProfileに適用するには、[有効]を選択します。
ダイナミックGOVは、映像状況によってGOV長が 最小GOV長の設定値から最大ダイナミックGOVの設定値まで自動に変更される機能です。ほとんどモーションがない映像では GOVが [ダイナミックGOV]でユーザーが設定した値に動作して全体映像のビットレートが短縮されます。モーションを検知すると、 その直後にIフレームが出力され、この後モーションがなくなるまでGOVがGOV長の設定値に動作することになります。
ダイナミックGOVは[ビットレート制御]が[VBR]の時のみ有効になります。

- 映像にモーションがない時に適用する最大GOV長値を入力します。入力値の範囲は[GOV長]の横に表示されます。[GOV長]に入力した値が最小値になり、最大値は480で[Profile設定]の[フレームレート]によって異なります。

参考事項

- ワイズストリーム機能を使用する場合、ダイナミックGOVとダイナミックFPS機能を使用するとワイズストリームの性能が最適化されます。ワイズストリームは[映像&音声] > [ワイズストリーム]メニューで設定することができます。

ダイナミックFPS

ダイナミックFPS機能を現在設定中のProfileに適用するには、[有効]を選択します。
ダイナミックFPS(Dynamic FPS)は、映像状況によって最小FPS設定値からフレームレートの設定値まで自動に変更される機能です。ほとんどモーションがない映像では、FPSが最小FPSの設定値に動作することになって全体映像のビットレートが短くなります。モーションを検知すると、FPS値を増加させて動作します。
ダイナミックFPSは[Codec]を[H.264]や[H.265]に選択して[ビットレート制御]が[VBR]の時のみ有効になります。

最小FPS

ダイナミックFPSが動作する時、適用する最小FPS値を入力します。

参考事項

- ワイズストリーム機能を使用する場合、ダイナミックGOVとダイナミックFPS機能を使用するとワイズストリームの性能が最適化されます。ワイズストリームは[映像&音声] > [ワイズストリーム]メニューで設定することができます。

マルチキャスト

マルチキャストは、一台のカメラで発生した映像を接続された数台のデバイスに送る時に使用します。現在、設定中のProfileでRTSP (Real Time Streaming Protocol)プロトコルの使用有無を設定して詳細を入力します。

マルチキャスト(RTSP)

RTSPプロトコルを使用して映像を伝送するには、[有効]を選択します。

IPアドレス

IPv4網でアクセスできるIPv4アドレスを入力します。マルチキャストアドレスを224.0.0.0 ~ 224.0.0.255に設定する場合、特定環境でマルチキャストができなくなる場合があります。問題が発生すると、マルチキャストアドレスを変更して使用してください。

ポート

映像伝送を制御するポートを設定します。マルチキャストRTSPポートの範囲は1024から65534で、範囲の中で偶数にしてください。(但し、3702ポートは使用できません。)

TTL

RTSPパケットのTTLを設定することができます。TTL値は0から255までの数のみ入力することができます。

ユーザー

カメラにアクセスするユーザーのアカウントを管理します。マネージャのパスワードを変更することができ、ゲスト設定、認証設定、現在のユーザー設定が可能です。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

Admin Password変更

マネージャのパスワードを変更することができます。保安を強化するためにローマ字の大文字&小文字、数字、特殊文字などを様々に組み合わせてパスワードを生成してください。

現在のパスワード

現在、使用中のパスワードを入力します。誰かが任意にパスワードを変更することを防止するために既存のパスワードを入力してからマネージャのパスワードを変更することができます。

新しいパスワード

新しく使用するパスワードを入力します。

新しいパスワードを確認する

新しく使用するパスワードを間違って入力した場合のために確認する手順です。新しいパスワードをもう一度入力します。

参考事項

- 保安強化のために特殊文字、数字、ローマ字の大文字、小文字を組み合わせてパスワードを設定することをお勧めします。
- パスワードは3カ月周期で変更することをお勧めします。
- パスワード長さ&上限は下記のどおりです。
  - 8桁以上9桁以下のパスワードの場合、ローマ字の大文字、小文字、数字、特殊文字の中で3種類以上を組み合わせて使用します。
  - 10桁以上15桁以下のパスワードの場合、ローマ字の大文字、小文字、数字、特殊文字の中で2種類以上を組み合わせて使用します。
  - IDと同一にしてはいけません。
  - 連続された文字を4つ以上、使用できません。(例：1234、abcd)
  - 同じ文字を4回以上、繰り返して使用できません。(例：!!!!、1111、aaaa)
  - 特殊文字は~`!@#$%^*()_-+=|{}[].?/のみ使用することができます。
  - 出荷条件初期化後、マネージャ&ユーザーのパスワードはすべて初期化されるため、パスワードを再設定する必要があります。
  - カメラ・ウェブビューアーに初アクセスしたり初期化後にアクセスする場合、パスワード設定メニューに移動します。
  - パスワード変更メニューで新しいパスワードを設定し、変更されたパスワードでウェブビューアーに再ログインしてからウェブビューアーメニューを使用することができます。
  - マネージャのパスワードを変更する時、既存のパスワードが一致しないと、パスワードを変更することができません。
  - パスワードを変更した後、CMSやNVRのようなクライアントにアクセスされたカメラがある場合、変更されたパスワードで再登録してから使用する必要があります。既存の

アクセスを維持すると、クライアントで前のパスワードを用いて認証するため、該当アカウントがロックされる場合があります。
- ウェブビューアーにログインする時、パスワード認証失敗を5回超過すると30秒間ロックされウェブビューアーにアクセスできなくなります。
- 同じIDで数カ所からアクセスしたり、複数のインタネットブラウザを開いたままパスワードを変更すると、インタネットブラウザが誤動作することがあります。パスワードを変更する時には、一カ所でアクセスしたり一つのインタネットブラウザのみを使用して変更することをお勧めします。

ゲスト設定	[ゲストアクセス許可]を選択すると、ウェブビューアー画面にゲストにアクセスすることができます。ゲストアカウントにアクセスすると、ウェブビューアーでライブ画面しか確認することができません。ゲストIDとパスワードは「guest/guest」で変更できません。
認証設定	[認証されていないRTSPへの接続許可]を選択すると、RTSP (Real Time Streaming Protocol)を用いてカメラ映像にアクセスする時、認証なしでアクセスすることができます。
現在のユーザー	マネージャの他にユーザーアカウントのアクセス情報を設定して音声入力、音声出力、アラーム出力、Profileなどの使用権限を設定することができます。 登録したユーザーがログインした時、ユーザーごとに設定された機能のみ有効になります。初期値に10つの現在のユーザーアカウントが設定されており、アカウントを追加したり削除することができます。現在のユーザーアカウントは最大10つまで使用することができます。

参考事項

- 設定されたユーザーの中でONVIFを使用するためのアカウントに設定したい場合、設定された権限によって機能使用が制限されます。

使用

選択したユーザーアカウントを有効にするには、チェックボックスを選択します。

名前

IDを入力します。

Password

パスワードを入力します。パスワード設定規則は、マネージャパスワードの設定規則と同一です。

音声入力

入力されたオーディオにアクセスできる権限を設定します。音声入力を選択すると、該当アカウントにアクセスしたユーザーは映像で画面と音声を同時に聞くことができ、音声入力を選択しないと映像の画面のみ確認できます。

音声出力

音声出力の権限を設定します。音声出力を選択すると、該当アカウントにアクセスしたユーザーはマイクなどで音声を出すことができます。

アラーム出力

アラーム出力の権限を設定します。アラームが設定された場合、該当アカウントでアクセスしたユーザーはアラームを出すことができます。

PTZ

[ライブ]モードでPTZを制御できる権限を設定します。

Profile

[初期値]に設定すると、基本Profileでのみ映像を確認することができ、[全体]に設定するとすべてのProfileで映像を確認することができます。

現在のユーザー入力

1. 使用する現在のユーザーアカウントのラジオボタンを選択します。現在のユーザーアカウントが入力できる状況に変更されます。
2. [使用]カラムでチェックボックスをチェックします。
3. [名前]と[Password]カラムにIDとパスワードを入力します。
4. [音声入力]、[音声出力]、[アラーム出力]カラムで許可する機能をそれぞれ選択して[Profile]カラムで許可するProfileタイプを選択します。
5. 現在のユーザーアカウントの入力を完了したら、ページの下にある[適用]ボタンをクリックします。
6. 確認ポップアップが表示されたら、[OK]ボタンをクリックします。

参考事項

- 現在のユーザーアカウントが10つ未満の場合、[追加]ボタンをクリックして現在のユーザーアカウントを追加することができます。

現在のユーザー修正

1. 修正する現在のユーザーアカウントのラジオボタンを選択します。
2. 機能設定を変更した後、ページの下にある[適用]ボタンをクリックします。
3. 確認ポップアップが表示されたら、[OK]ボタンをクリックします。変更された現在のユーザー情報が保存されます。

現在のユーザー削除

1. 削除する現在のユーザーアカウントのラジオボタンを選択した後、[削除]ボタンをクリックします。
2. ページの下にある[適用]ボタンをクリックします。
3. 確認ポップアップが表示されたら、[OK]ボタンをクリックします。選択した現在のユーザー情報が削除されます。

日付＆時間

カメラの現在システム時間を確認してタイムゾーンによって時間設定を変更したり、PC時間またはNTPサーバーと同期化してシステム時間を設定することができます。

システム時間

カメラのシステム時間が表示されます。既存に設定しておいたシステム時間が表示されます。

タイムゾーン

カメラの時間をグリニジ平均時(GMT)を基準に設定します。

タイムゾーン

お望みのタイムゾーンを選択して真下の[適用]ボタンをクリックします。

SUMMER TIME

SUMMER TIMEを使う地域を選択する場合には、[SUMMER TIME]メニューが表示されます。選択したタイムゾーンのSUMMER TIME開始時間と終了時間が表示されます。[SUMMER TIME]を[有効]に選択すると、該当地域のグリニジ平均時より一時間早い時間に表示されます。

参考事項

- [SUMMER TIME]が[有効]に設定された場合のみ、[再生]画面のタイムラインにSUMMER TIMEが適用された時間が表示されます。
- ユーザーのPC時間がSUMMER TIMEを自動に適用するよう設定されている場合、カメラのウェブビューアーの[SUMMER TIME]は自動に[有効]と選択され、ユーザーが任意に変更することができません。

システム時間設定

カメラの時間をユーザーが手動で設定したり、NTPサーバーと同期化して設定することができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックします。

マニュアル

カメラの現在時間をユーザーが任意で入力したり、現在使用中のPC時間と同期化することができます。

- [年-月-日]と[時:分:秒]で任意に時間を入力してシステム時間を設定します。
- [PC viewerと同期化]を選択すると、PC viewerの時間とシステム時間が同期化されます。[PC viewerと同期化]を選択した場合、PCとカメラ両方ともタイムゾーンをそれぞれ設定する必要があります。

NTPサーバーと同期化

NTP (Network Time Protocol)サーバーの時間とシステムの時間が同期化されます。初期値に5つのNTPサーバーアドレスが入力されています。アドレス入力をクリックすると、NTPサーバーアドレスを変更することができます。

IP&ポート

IPアドレスとポート値を入力します。[IPアドレス]タブでは、IPv4とIPv6を設定することができます。[ポート]タブでは、各プロトコルのポート値を設定することができます。設定を完了した後、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。[適用]ボタンをクリックすると、カメラ・ウェブビューアーに再度アクセスする必要があります。

IPv4 設定

IPv4タイプを使用してネットワーク通信を有効にした場合に使用する属性のIPタイプ、MACアドレス、IPアドレス、Subnet Mask、GATEWAY、DNS情報を確認したり変更することができます。

IPタイプ

IP接続タイプを選択します。IPアドレスを固定的に使用する場合には、[マニュアル]に設定してすべての情報を入力します。動的IPを使用する場合、[DHCP]に設定してDNSアドレスのみ入力します。
[PPPoE]タイプを使用する場合、DNSアドレスとID、パスワードのみ入力します。

- マニュアル：IPアドレス、Subnet Mask、GATEWAY、DNS1、DNS2を直接入力して設定します。
- DHCP：DNS1、DNS2を設定します。
- PPPoE：DNS1、DNS2、ID、パスワードを設定します。

MACアドレス

カメラのMACアドレスが表示されます。

IPアドレス

現在、設定されたIPv4のアドレスが表示されます。

Subnet Mask

設定されたIPアドレスのSubnet Maskが表示されます。[IPタイプ]を[マニュアル]に設定すると、Subnet Maskを変更することができます。

GATEWAY

設定されたIPアドレスのGATEWAYが表示されます。[IPタイプ]を[マニュアル]に設定すると、GATEWAYを変更することができます。

DHCPごとのDNS設定

[IPタイプ]を[DHCP]に設定した時に表示されます。[使用]を選択した場合、DNSアドレスが自動に割り当てられます。

DNS1/DNS2

DNS (Domain Name Service)サーバーのアドレスが表示されます。

ホスト名

ホスト名を読み込むためのONVIF GetHostname操作に使用される名です。初文字は必ず英語のアルファベットで、英数字のみ入力することができます。また、最大63文字まで入力できます。カメラのデバイス名が初期値に入力されており、必須入力値ではないため値を設定する必要はありません。

ID

[IPタイプ]を[PPPoE]に設定した時に表示されます。アクセスするIDを入力します。

Password

[IPタイプ]を[PPPoE]に設定した時に表示されます。アクセスするIDのパスワードを入力します。

IPv6 設定

IPv6はIPv4よりデータの処理速度、同時データ処理容量、インタネットアドレスのシステムなどを拡張した次世代インタネットアドレスのシステムです。IPv6を有効にするためには、[使用]を選択します。IPタイプ、IPアドレス、Prefix、GATEWAYを設定することができます。IPインストーラーでカメラ型名を選択すると、IPv4やIPv6アドレスの中で選択することができ、ウェブブラウザにIPv6アドレスを入力してアクセスすることができます。

IPタイプ

IP接続タイプを選択します。初期値は[初期値]です。この時にDHCPが見つからないと、自動に前の設定値に変更されます。

- DHCP：DHCPで与えられたIPv6アドレスが表示されます。
- マニュアル：ユーザーが任意に設定したIPv6アドレスを入力することができます。
- 初期値：初期値に設定されているIPv6アドレスが表示されます。

参考事項

- 設定を変更して[適用]ボタンをクリックすると、ウェブブラウザが閉じられます。後ほど、変更したIPに再度アクセスしてください。

IPアドレス

IPv6アドレスを入力します。

Prefix

IPの範囲を設定することができる値です。[IPタイプ]が[初期値]の場合、[Prefix]値は64です。[マニュアル]の場合には、[Prefix]値を変更することができます。

GATEWAY

[IPタイプ]を[マニュアル]に設定した時に表示されます。ユーザーが直接にGATEWAYアドレスを入力します。

ポート

ポートは、システムでデータを送受信する時に使用する位置を意味します。[ポート]タブをクリックして該当項目を設定した後、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。映像の保安強化のためにHTTPS、RTSP使用をお勧めします。

> **参考事項**
> - ポート設定時、0 ~ 1023または3702, 4520, 49152は使用できません。

HTTP

ウェブブラウザを用いてカメラにアクセスする時に使用されるHTTPポートです。初期値は80(TCP)です。保安ポリシー上、Safari&Google ChromeブラウザではHTTPポートを65535に設定してアクセスすることができません。HTTPポートを変更する時、ウェブブラウザが閉じられます。再アクセスする時には、新たに設定したHTTPポートをIPアドレスの後に入力してアクセスしてください。HTTPポートが80の場合には、ポートNo.をスキップすることができます。(例：カメラIPアドレス：192.168.1.100、HTTPポート：8080の場合 -> http://192.168.1.100:8080)

HTTPS

HTTPより保安が強化されたバージョンです。SSLでHTTPSモードを設定する時に使用することができます。初期値は443(TCP)です。設定可能な範囲は1024 ~ 65535です。保安ポリシー上、Safari&Google ChromeブラウザではHTTPSポートを65535に設定してアクセスすることができません。

RTSP

RTSP (Real Time Streaming Protocol)タイプで映像を伝送するためのポートで、初期値は554です。

Time out

Time outを有効にするためには、[使用]を選択します。RTSPタイプに接続した時、一定時間反応がない場合にはポート接続を再設定します。

ビデオprofile

ビデオprofileを追加したり削除してProfile設定を変更することができます。ビデオ解像度、フレームレート、Codecなどを「ビデオprofile」にすでに設定した後、環境と状況によってユーザーが望むProfileに変更して映像をストリームしたり再生することができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックして設定を適用してください。

PTZモードの選択

[外部PTZ]を選択すると、RS-485やRS-422ポートに接続されたレシーバーでカメラPTZを制御することができます。ウェブビューアーの左側にあるメニューツリーに[PTZ]>[外部PTZ]メニューが生成されます。
[デジタルPTZ]を選択すると、カメラPTZをデジタルで制御することになります。ウェブビューアーの左側にあるメニューツリーに[PTZ]>[デジタルPTZ]メニューが生成されます。「デジタルPTZ Profile」が適用された場合のみデジタルPTZモードが動作され、この時に解像度とビットレートが制限されます。

ビデオプロファイル接続ポリシー

Profile設定が変更された時、既存のProfileに映像を出力し続けるか変更されたProfileに映像を出力し続けるかを設定することができます。
[プロファイルの設定変更後も、接続を維持する]を選択すると、Profile設定を変更しても既存のProfile設定に映像を出力し、再度ウェブビューアーにアクセスした時、変更されたProfileに映像を出力します。Profile設定を変更して再度ウェブビューアーにアクセスするまでは、[ライブ]画面にオレンジ色の枠が表示されます。[プロファイルの設定変更後も、接続を維持する]を選択しないと、Profile設定を変更した時にすぐ変更されたProfileに映像が出力されます。

ビデオprofile

製品の使用環境と状況によってビデオのProfileを選択することができます。初期値に提供されるProfileの他に新しいProfileを追加したり削除することができます。Profile別にCodec、Profileタイプ、解像度、フレームレート、最大ビットレート、目標ビットレート、ビットレート制御、マルチキャストなどを設定することができます。

Profileリスト

初期値に提供されるProfileのリストとユーザーが追加したProfileのリスト両方とも表示されます。

ビデオprofile追加

1. [追加]ボタンをクリックします。Profileリストで新しい項目が追加されます。
2. [名前]フィールドにProfile名を入力します。Profileリストに入力した名前が表示されます。
3. [Codec]、[Profileタイプ]、[解像度]など、Profileの詳細を設定します。
4. ページの下にある[適用]ボタンをクリックします。
5. 確認ポップアップが表示されたら、[OK]ボタンをクリックします。新しいProfileが追加されます。

ビデオprofileの設定変更

1. Profileリストで詳細設定を変更するProfileを選択します。
2. [Codec]、[プロファイルタイプ]、[解像度]など、Profileの詳細設定を変更します。
3. ページの下にある[適用]ボタンをクリックします。
4. 確認ポップアップが表示されたら、[OK]ボタンをクリックします。選択したProfileの設定が変更されます。

ビデオprofile削除

1. Profileリストで削除するProfileを選択します。
2. [削除]ボタンをクリックします。
3. 確認ポップアップが表示されたら、[OK]ボタンをクリックします。選択したProfileが削除されます。

名前

Profileリストで選択したProfile名が表示されます。新規でProfileを生成する時、Profile名を入力することができます。

Codec

Profileに適用するCodecを選択します。選択したCodecタイプによって、Profile設定の詳細が異なります。

プロファイルタイプ

適用するProfileタイプを選択します。選択したProfileタイプは、Profileリストの[タイプ]カラムに表示されます。選択したCodecタイプによって表示される設定項目が異なります。

- 基本プロファイル：カメラの映像をライブにストリームする時、適用される基本Profileです。Profileリストの[タイプ]に「Default」と表示されます。
- E-mail/FTP profile：イベントが発生すると、キャプチャー画面をE-mailとFTPサーバーに伝送する時に使用するビデオProfileです。Profileリストの[タイプ]カラムに「Event」と表示されます。 [Codec]を「MJPEG」に設定した場合のみ、E-mail/FTP profileオプションが表示されます。
- 録画Profile：SDカードまたはNASに映像を録画する時、適用するProfileです。Profileリストの[タイプ]カラムに「Record」と表示されます。
- フレームレート固定プロファイル：映像のフレームレートを一定レベルで保障する時、適用するProfileです。[Codec]を[H.264]または[H.265]に設定した場合のみ、「フレームレート固定プロファイル」オプションが表示されます。

音声入力

カメラが内蔵マイクを持っているか外部マイクを接続した場合、カメラの外部音が映像に入力されるように設定することができます。
[ライブ]画面のマイクとスピーカー機能を有効にするには、[音声入力]を[有効]に選択する必要があります。

ATCモード

ATC(Auto Transmit Control)モードは、ネットワーク帯域幅の変化量によって映像の属性を変更して伝送量を調整します。伝送量の調整方法は、ATCモードによって異なります。

- 未使用：ネットワーク帯域幅が変化してもビデオ伝送量を一定維持します。
- 有効 - フレームレート制御：ネットワーク帯域幅が変化される場合、フレームレートを変更して伝送するデータ量を調整します。
- On - 圧縮制御：ネットワーク帯域幅が変化される場合、伝送するデータの圧縮率を変更して伝送するデータ量を調整します。圧縮調整する場合、画質が低くなることがあります。
- On - イベント(MD)：モーション検知イベントが設定されている場合、使用できるモードです。モーション検知イベントが発生してネットワーク帯域幅が変化する場合、フレームレートを変更してデータ量を調整します。モーションが検知されない場合、最小限のフレームだけを出力して帯域幅使用を節約します。

感度

ネットワーク帯域幅変化量の反映速度を調整します。ATC感度が最高の場合に反映速度が最も早く、最低の場合に反映速度が最も遅いです。
ATC感度は、[ATCモード]を[有効 - フレームレート制御]、[On - 圧縮制御]に選択する時のみ有効になります。

上限

ネットワーク帯域幅変化量によってビデオ伝送量を変更する時、ある程度まで属性を変更するかATCモードの上限値を設定します。ATCモードを使用しなかった時を100%と仮定すると、10～50%に値を設定することができ、設定された値の以下にはビデオ伝送量は変更されません。
この時、伝送量を減らし過ぎると画面が点滅する場合があるため、本設定値を調整して限界設定値を調整します。
ATC上限は、[ATCモード]を[有効 - フレームレート制御]、[On - 圧縮制御]に選択する時のみ有効になります。

参考事項

- ATCに対応するカメラで構成された環境でのみ、ATCを有効にすることをお勧めします。
- ネットワーク帯域幅の変化量が急激な環境ではATC感度を[最低]に設定してください。
- ネットワーク環境が不安定の場合、画面が点滅することがあります。

クロップエンコーディング

クロップエンコーディングは、全画面で選択したエリアだけを切って[Profile設定]で設定された解像度に合わせて出力します。クロップエンコーディング設定エリアより小さいサイズの解像度のみ設定することができます。現在、設定中のProfileにクロップエンコーディングを適用するには、[有効]を選択します。

トリミング領域設定

1. クロップエンコーディングを[有効]に設定した後、[エリアを設定]ボタンをクリックします。
2. [トリミング設定領域]のプレビュー画面でマウスをドラッグしてエリアを設定します。エリアを16:9比や4:3比に合わせて設定するには、それぞれ[16:9]、[4:3]を選択し、比率に関係ないエリアを選択するには、[手動]を選択します。
3. エリア設定を完了したら、[OK]ボタンをクリックします。

参考事項

- [トリミング設定領域]でユーザーが任意で範囲を指定した場合、ユーザーが指定した範囲で出力解像度と最も近い解像度に出力します。
- [映像&音声]>[カメラ設定]>[特別設定]>[DIS]設定を変更すると、トリミング設定領域が異なる場合があります。DIS設定を変更する時、クロップエンコーディングのエリアを再設定してください。

Profile設定

現在、設定中のビデオprofileの詳細を設定します。

解像度

カメラ映像の解像度を設定します。

参考事項

- 高解像度の映像を問題なくストリームするためには、Chromeでウェブビューアーにアクセスすることをお勧めします。

フレームレート

1秒当たりのフレーム数を設定します。
[映像&音声]>[カメラ設定]>[センサー]で選択したフレームレート値によって、設定できるフレームレートの範囲が異なります。

最大ビットレート

[ビットレート制御]が[VBR]の場合、映像の最大ビットレートを設定します。

ターゲットビットレート

[ビットレート制御]が[CBR]の場合、伝送する映像データの量を設定したターゲットビットレートに固定して映像を伝送します。

詳細

Profileの[Codec]を[H.264]や[H.265]に設定した場合には、すべての詳細設定項目が表示されます。Profileの[Codec]を[MJPEG]に選択した場合は、[エンコーディング優先順位]項目のみ表示されます。

ビットレート制御

映像データ量をどう調整するか設定することができます。

- CBR：固定ビットレート(Constant Bitrate)は、フルフレームのデータを一定サイズに固定して伝送するタイプです。CBRを選択すると、ターゲットビットレートを設定して伝送するデータのサイズを設定します。CBRの場合、固定的なデータサイズをもつため、全体的なシステムのデータサイズを予測しやすくて安定的にシステムを運用することができます。
- VBR：可変ビットレート(Variable Bitrate)は、フレームのデータサイズを固定せずに最大ビットレート内で映像を伝送するタイプです。VBRは、画質を維持しながら

ストレージスペースの容量や帯域幅を効率的に使用することができるが、映像が急に複雑になったり大きいモーションがある場合ネットワークに負担がかかります。

参考事項

- ビットレート制御を「CBR(固定ビットレート)」に設定してから画質優先モードを選択した場合、画面の複雑度によって設定されたビットレートで最大限に画質を保障するために実際伝送されるフレームレートが設定されたフレームレートと異なる場合があります。

エンコーディング優先順位

映像データ量がターゲットビットレートの値を超える時、フレームレートと画質中に何を優先順位としてエンコーディングするか設定します。
Profileの[Codec]を[H.264]や[H.265]に選択した場合、[フレームレート]と[圧縮]の中で選択することができます。[フレームレート]を優先順位に設定すると、フレームレートを最大限に保障するが画質は低くなることがあります。逆に[圧縮]を優先順位に設定すると、画質は保障するが抜け落ちるフレームが発生して映像が切れたり不自然になることがあります。Profileの[Codec]を[H.264]や[H.265]に選択した場合、[エンコーディング優先順位]は[ビットレート制御]を[CBR]に設定した場合のみ有効となります。
Profileの[Codec]が[MJPEG]の場合、[フレームレート]と[ビットレート]の中で選択することができます。

GOV長

GOV(Group of Video)はH.264/H.265のビデオ圧縮のための映像フレームの集合でIフレームから次のIフレームまでのフレーム集合を意味します。GOV内には、IフレームとPフレームという2タイプのフレームがあります。Iフレームは圧縮の基本となるフレームでキーフレームとも呼ばれ、完全な一枚の画像データを持つ独立的なフレームです。Pフレームは前のフレームを基準に変更された部分の情報のみを持っているため、映像データ量が少ないです。したがって、GOV長が長いほどIフレーム数は少ないため映像データ量も少なくなるし、GOV長が短いほどIフレームが多くなるため映像データ量も多くなります。GOV長の最大値は[Profile設定]の[フレームレート]によって異なります。
H.264 CodecやH.265 Codecで録画ファイルを設定した場合、GOV長はframerate/2になります。

Profile

ProfileのCodecが[H.264]の場合のみ、メニューが有効となります。Profileは圧縮する時に使用する様々な圧縮技術を組み合わせた集合とも言えます。ハンファテックウィンのカメラで対応するProfileは[Baseline]、[Main]、[High]です。BaselineでHighに行くほど圧縮性能が高くなって画質が良くなるが、圧縮する時と圧縮を解凍する時にシステムのリソースが多く使用され再生デバイスに負荷がかかります。

エントロピー符号化

エントロピー符号化は、シンタックス(Syntax)の統計を用いた可変長コーディングで無損失の圧縮タイプです。
CAVLC (Context Adaptive Variable Length Coding)とCABAC (Context Adaptive Binary Arithmetic Coding)の2タイプを提供します。但し、Baseline Profileの場合にはCAVLCタイプのみ使用できます。

- CABAC：圧縮率が高いが、データの処理過程が複雑でシステムリソースを多く使用します。

- CAVLC：CABACに比べて圧縮率が低いが、データの処理過程がシンプルでシステムリソースを少なく使用します。

Smart codec

Smart codecの使用有無を設定します。Smart codecは、映像でユーザーが好むエリアは圧縮率を減らして高画質で出力し、その他の部分は圧縮率を上げて標準画質に出力して全体の映像データサイズを減らすハンファテックウィンの独自技術です。Smart codecは[ビットレート制御]が[CBR]の時のみ有効になります。
Smart codecのROI領域は、[映像&音声]>[Smart codec]で設定することができます。

ダイナミックGOV

ダイナミックGOV機能を現在設定中のProfileに適用するには、[有効]を選択します。
ダイナミックGOVは、映像状況によってGOV長が 最小GOV長の設定値から最大ダイナミックGOVの設定値まで自動に変更される機能です。ほとんどモーションがない映像では GOVが [ダイナミックGOV]でユーザーが設定した値に動作して全体映像のビットレートが短縮されます。モーションを検知すると、 その直後にIフレームが出力され、この後モーションがなくなるまでGOVがGOV長の設定値に動作することになります。
ダイナミックGOVは[ビットレート制御]が[VBR]の時のみ有効になります。

- 映像にモーションがない時に適用する最大GOV長値を入力します。入力値の範囲は[GOV長]の横に表示されます。[GOV長]に入力した値が最小値になり、最大値は480で[Profile設定]の[フレームレート]によって異なります。

参考事項

- ワイズストリーム機能を使用する場合、ダイナミックGOVとダイナミックFPS機能を使用するとワイズストリームの性能が最適化されます。ワイズストリームは[映像&音声] > [ワイズストリーム]メニューで設定することができます。

ダイナミックFPS

ダイナミックFPS機能を現在設定中のProfileに適用するには、[有効]を選択します。
ダイナミックFPS(Dynamic FPS)は、映像状況によって最小FPS設定値からフレームレートの設定値まで自動に変更される機能です。ほとんどモーションがない映像では、FPSが最小FPSの設定値に動作することになって全体映像のビットレートが短くなります。モーションを検知すると、FPS値を増加させて動作します。
ダイナミックFPSは[Codec]を[H.264]や[H.265]に選択して[ビットレート制御]が[VBR]の時のみ有効になります。

最小FPS

ダイナミックFPSが動作する時、適用する最小FPS値を入力します。

参考事項

- ワイズストリーム機能を使用する場合、ダイナミックGOVとダイナミックFPS機能を使用するとワイズストリームの性能が最適化されます。ワイズストリームは[映像&音声] > [ワイズストリーム]メニューで設定することができます。

マルチキャスト

マルチキャストは、一台のカメラで発生した映像を接続された数台のデバイスに送る時に使用します。現在、設定中のProfileでRTSP (Real Time Streaming Protocol)プロトコルの使用有無を設定して詳細を入力します。

マルチキャスト(RTSP)

RTSPプロトコルを使用して映像を伝送するには、[有効]を選択します。

IPアドレス

IPv4網でアクセスできるIPv4アドレスを入力します。マルチキャストアドレスを224.0.0.0 ~ 224.0.0.255に設定する場合、特定環境でマルチキャストができなくなる場合があります。問題が発生すると、マルチキャストアドレスを変更して使用してください。

ポート

映像伝送を制御するポートを設定します。マルチキャストRTSPポートの範囲は1024から65534で、範囲の中で偶数にしてください。(但し、3702ポートは使用できません。)

TTL

RTSPパケットのTTLを設定することができます。TTL値は0から255までの数のみ入力することができます。

ビデオ設定

カメラ映像にプライバシー領域を設定したり、映像画面を上下左右に反転させることができます。また映像をアナログに出力するように設定したり、ビデオ出力タイプを変更することができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。
設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

プライバシー領域

カメラ映像でプライバシーの侵害の恐れがある部分を表示しないようにプライバシー領域として設定することができます。[プライバシーエリアを有効にする]を選択した後。プライバシー領域を無効にするには[プライバシーエリアを有効にする]を選択解除した後。プライバシー領域によって隠される部分なくカメラ映像を確認することができます。設定しておいたエリアは、削除されることなくプライバシー領域リストで確認することができます。

パターン

プライバシー領域に適用するモザイクパターンを選択します。[ソリッド]で設定すると、プライバシー領域のメニューで設定した色が適用されます。パターンを選択すると、すべてのエリアに同じく適用されます。

プライバシー領域設定(ズームカメラやPTZカメラ以外の場合)

1. [プライバシーエリアを有効にする]を選択します。
2. カメラの映像画面からマウスで頂点4つをクリックします。
3. [プライバシー領域]で次の項目を設定します。
   - [名前]にプライバシー領域名を入力して[カラー]で映像を隠す色を選択します。
4. [プライバシー領域]で[OK]ボタンをクリックします。
5. 追加したプライバシー領域がプライバシー領域リストに追加されます。カメラ映像画面に設定したカラーでプライバシー領域が表示されます。

プライバシー領域設定(PTZカメラの場合)

1. [プライバシーエリアを有効にする]を選択します。
2. カメラ映像画面でマウスをドラッグしてプライバシー領域のサイズを設定します。
3. [プライバシー領域]で次の項目を設定します。
   - ⊕ アイコンをドラッグして好む映像画面がプライバシー領域に位置するようにカメラのパン/チルトを調整します。
   - [名前]にプライバシー領域名を入力して[カラー]で映像を隠す色を選択します。
   - [ズーム閾値]機能の使用状況の確認を選択します。「ズーム閾値」は[ズーム倍率制限設定]で指定したズーム倍率以上に映像をズームインした場合のみ、プライバシー領域が動作する機能です。つまり、設定したズーム倍率より映像画面をズームアウトすると、プライバシー領域が映像から除去されます。
4. [プライバシー領域]で[OK]ボタンをクリックします。
5. 3段階で[ズーム閾値]オプションの中、[使用]を選択した場合、[ズーム倍率制限設定]が表示されます。お望みの倍率でズームを調整してから、[確認]ボタンをクリックします。
6. 追加したプライバシー領域がプライバシー領域リストに追加されます。ズーム閾値機能が適用されたプライバシー領域は、プライバシー領域リストに「[ズーム]」が表記されます。カメラの映像画面に設定したカラーでプライバシー領域が表示されます。

プライバシー領域設定(ズームカメラの場合)

1. [プライバシーエリアを有効にする]を選択します。
2. カメラの映像画面でマウスをドラッグしてプライバシー領域を設定します。
3. [プライバシー領域]で次の項目を設定します。
   - [名前]にプライバシー領域名を入力して[カラー]で映像を隠す色を選択します。
   - [ズーム閾値]機能の使用状況の確認を選択します。「ズーム閾値」は[ズーム倍率制限設定]で指定したズーム倍率以上に映像をズームインした場合のみ、プライバシー領域が動作する機能です。つまり、設定したズーム倍率より映像画面をズームアウトすると、プライバシー領域が映像から除去されます。
4. [プライバシー領域]で[OK]ボタンをクリックします。
5. 3段階で[ズーム閾値]オプションの中、[使用]を選択した場合、[ズーム倍率制限設定]が表示されます。お望みの倍率でズームを調整してから、[確認]ボタンをクリックします。
6. 追加したプライバシー領域がプライバシー領域リストに追加されます。ズーム閾値機能が適用されたプライバシー領域は、プライバシー領域リストに「[ズーム]」が表記されます。カメラの映像画面に設定したカラーでプライバシー領域が表示されます。

参考事項

- プライバシー領域名は、英数字、ダーシ(-)、ピリオド(.)だけ入力することができます。

プライバシー領域削除

1. プライバシー領域リストで削除するプライバシー領域を選択します。カメラの映像画面に選択したエリアが表示されます。
2. [削除]ボタンをクリックします。選択したエリアが削除されます。

ビデオ回転

カメラを設定した後、画面がひっくり返って見える場合にはフリップ、ミラー機能で画面を直すことができます。また廊下や小道にカメラを設置した場合、[玄関ビュー]機能で画面を縦に長く撮影することができるため、監視エリアを効率的に運用することができます。

参考事項

- ビデオ回転設定を変更すると、ビデオ映像画面が上下左右にひっくり返ったり変更されます。変更された映像に合わせて映像を分析できるように[分析]メニューで分析設定を変更してください。

フリップ

カメラの映像をフリップさせるには、[On]を選択します。

ミラー

カメラの映像をミラーさせるには、[On]を選択します。

玄関ビュー

狭い廊下や小道のように一般カメラの映像には監視しにくい環境でカメラ映像を回転させて上下の監視エリアをズームインすることができます。90°(時計回り)、270°(時計回り)に回転することができ、0°に設定すると元の映像に戻ります。

参考事項

- 玄関ビューを設定するためには、設置されたカメラを0°、90°(時計回り)もしくは270°(時計回り)に直接回転させた後、[玄関ビュー]で同一な角度を選択する必要があります。
- [玄関ビュー]を設定すると、ウェブブラウザが自動に閉じられるためウェブビューアーに再度アクセスする必要があります。

ビデオ出力

カメラ映像をビデオで出力するタイプを選択します。

USB

USBを使ってカメラ映像を出力するためには、[有効]をクリックします。
Wi-Fiドングルとハンファテックウィンで提供するスマートフォンアプリケーションでWi-Fi通信に接続してカメラにアクセスすることができます。ネットワークカメラを最初にインストールする時や視野角度、位置などを変更する場合、別途の設置用モニターがなくてもスマートフォンでカメラの映像を確認することができるため、有用です。

ビデオ出力

CVBSを使ってカメラ映像を出力するためには、[有効]をクリックします。
カメラを設置する時、レンズ位置やフォーカスなどを確認しながら設定することができるため、有用です。

CVBS方式

CVBSを使用する場合、CVBSビデオ出力タイプを選択します。

- NTSC：NTSC (National Television System Committee)タイプは、アメリカで制定したカラーテレビの標準です。1秒当たりのフレーム数は30フレーム、水平走査線は525です。1秒当たりのフレーム数が高くて画面が自然に表現されます。主にアメリカ、日本、カナダなどで使用するタイプです。
- PAL：PAL (Phase Alternation Line)タイプはドイツから提案されてNTSCタイプと似ているが、カラー信号を扱う方法に差があります。主にヨーロッパで使用するタイプです。NTSCに比べて1秒当たりのフレーム数は少ないが、水平走査線が625でより多くて解像度が高く、カラー変形が少なく、放送設備に高度の規格が必要ないです。

参考事項

- カメラの性能低下を防ぐためにカメラを設置した後には、「アナログビデオ」機能をオフにしてください。

音声設定

ネットワークカメラに接続させてリモートからカメラが設置された所の音を聞いたり、カメラで音声を出力することができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

音声入力

カメラに接続されたマイクで映像に音声を入力することができます。使用環境に合うソースを選択して音声を入力します。

入力ソース

音声入力タイプを選択します。

- 内蔵マイク：カメラに含まれた内蔵マイクです。
- 外部マイク：カメラに外部マイクを接続させて使用します。[外部マイク電源を有効にする]を選択すると、外部マイクの電源が供給されない場合にカメラから外部マイクに電源を供給します。
- ライン入力：ケーブルで音響機器と接続させます。例えば、MP3プレーヤーのような音響機器とカメラをケーブルで接続させた後、MP3プレーヤーに録音された音声をカメラに入力する時に選択します。

Codec

音声Codecを選択します。

- G.711：64Kbpsパルス符号変調(PCM)の音声符号化を使用する音声Codecを標準としてPSTNやPBXでデジタル音声を伝えられるフォーマットでITU標準音声Codecです。
- G.726：64Kbpsパルス符号変調(PCM)を40/32/24/16Kbpsなどに可変して圧縮するために適応差分パルス符号変調(ADPCM)の音声符号化技法を使用するITU音声Codecです。
- AAC：Advanced Audio Codingの略字でMP3の後を継ぐ国際標準です。既存のG.711、G.726 Codecを使用する時より高いサンプリングレートの音声を使用することができます。

参考事項

- 音声設定ページで好むCodecを設定したとしても、FirefoxやEdgeで映像をストリームする場合にはAAC Codecに対応しません。

サンプリングレート

アナログサウンドをデジタル化する時の1秒当たりのサンプリング回数を意味し、この値が高いほど音質が向上されます。サンプリングレートは音声Codec別に値が決められているため、ユーザーが変更できません。G.711 CodecとG.726 Codecのサンプリングレートは8 KHz、AAC Codecのサンプリングレートは16 KHzです。

ビットレート

G.711 Codecは64 Kbpsで変更できません。G.726 Codecは16 Kbps、24 Kbps、32 Kbps、40 Kbpsで圧縮率を変更することができます。AAC Codecは48 Kbpsのみ選択することができます。

Gain

音声入力の増幅値を設定します。入力される音が小さい場合、Gain値を上げて入力された音声信号を増幅させることができます。Gain値の範囲は1 ~ 10で、値が大きいほど増幅値が大きくなります。

ノイズリダクション

周囲にノイズがひどくて音声がよく聞こえない場合、ノイズリダクション機能を選択します。
ノイズが周囲の音声と区別されなかったり音圧が高い場合、ノイズリダクション機能が正しく動作しないことがあります。

- 感度: 周囲のノイズレベルによってノイズリダクションの感度を選択することができます。

音声出力

内蔵されたスピーカーで音声を出力することができます。

音声出力

音声出力を有効にするためには、[有効]を選択します。

Gain

音声出力の増幅値を設定します。出力する音が小さい場合、Gain値を上げて出力する音声信号を増幅させることができます。Gain値の範囲は1 ~ 10で、値が大きいほど音声出力が大きくなります。音声出力を[有効]に選択すると、Gainが有効になります。

参考事項

- サウンドの音量やGain値を過度に設定する場合、音質低下またはハウリング問題が発生することがあります。

カメラ設定

カメラが設置された環境で最適の映像を撮影するようにカメラの設定を変更することができます。様々な環境に適合した画像プリセットを基本的に提供し、ユーザーが直接にカメラの設定値を指定することもできます。カメラのプレビュー画面で設定した値によって、カメラの映像がどう表示されるか確認することができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。設定を変更した後、[適用]ボタンをクリックせずにTime out時間(240秒)が経過すると、設定値が変更前に戻ります。

センサーモード

カメラのCMOSセンサーが1秒に何フレーム(fps)を撮影するか設定します。

> **参考事項**
> - センサーモードのオプションを変更すると、[カメラ設定]で設定したすべての値が初期化されます。
> - センサーモード値は、画像プリセットごとにそれぞれ異なる設定ができません。フレームレートは、すべての画像プリセットに等しく適用されます。
> - センサーモードで設定したフレーム数に応じて、[Basic]＆gt;[ビデオprofile]＆gt;[フレームレート]の最大値が異なります。.

画像プリセットモード

画像プリセットが様々な目的別に適用されます。カメラを使用する環境に合わせて画像プリセットを選択します。

- ユーザー設定プリセット1：ユーザーが設定したどおりに映像を表示する時に使用します。
- ユーザー設定プリセット2：ユーザーが設定したどおりに映像を表示する時に使用します。
- 屋外昼間：屋外、昼間状況で引かれなく鮮やかな映像を表示したい時に使用します。
- 屋外夜間：屋外、夜間、低照度状況でノイズを減少させて暗いエリアを鮮明に表示したい時に使用します。
- 屋内バックライト：屋内のバックライト状況で屋内外が両方職別できる映像に表示したい時、使用します。
- 屋内の明るい照明：屋内照明状況で鮮やかな画質&ローフリッカーのために使用します。
- 車のナンバープレート：デイ/ナイトに車のナンバープレートをよく職別するために使用します。
- 鮮明な動画： カラーと鮮鋭度を上げるために使用します。

> **参考事項**
> - 画像プリセットモードを選択してからホワイトバランス、デイ・ナイトモードなどのようにカメラ画像の詳細設定を変更して[適用]をクリックすると、変更した値が該当の画像プリセット値で保存されます。初期値に戻すためには、[初期化]ボタンをクリックします。

SSDR

SSDRは暗い部分と明るい部分の明るさ差が激しい環境で暗い部分の明るさだけを上げて全体を均一に表示させるように調整する機能です。

SSDR

SSDRを有効にするためには、[有効]を選択します。

レベル

ダイナミックレンジのレベルを調整します。レベルを上げるほど暗い部分の明るさが明るくなります。

D-レンジ

ダイナミックレンジの振幅エリアを選択します。

ホワイトバランス

どんな照明環境でも白が表示されるように白を基準として他のカラーが正しく表示されるように補正することができます。

モード

カメラを使用する環境によってホワイトバランスモードを選択します。

- マニュアル：手動で赤のゲインと青のゲインを調整することができます。赤が多く表示されると赤のゲインを下げ、青が多く表示されると青のゲインを下げます。緑が多く表示されると青色値/赤色値を共に上げます。
- ATW：カメラのカラーを自動に補正します。
- 屋外：カメラのカラーを屋外環境に最適化されるように補正します。
- 屋内：カメラのカラーを屋内環境に最適化されるように補正します。
- AWC：カメラのカラーを現在の照明環境に最適化されるように画面を補正します。カメラに白い紙を映して[設定]ボタンを押すと、赤/青のゲイン値が調整され映像に適用されます。現在、表示される映像のホワイトバランス値が映像に適用し続け、環境が変わると再調整する必要があります。

赤のゲイン

赤のゲインを調整します。赤のゲインが高いと、画面に赤色が多く表示されます。赤色が多く表示されたら赤のゲインを下げます。

青のゲイン

青のゲインを調整します。赤のゲインが高いと、画面に赤色が多く表示されます。青色が多く表示されたら青のゲインを下げます。

参考事項

- 下記の場合には、ホワイトバランスが正しく動作しないことがあります。その場合には[AWC]モードでホワイトバランスを調整してください。
  - 透き通った空、夕方のように被写体の周囲環境が色温度の補正範囲から外れた場合
  - 被写体の周囲環境が暗い場合
  - カメラが蛍光灯を直接向いたり照明の変化が激しい場合

バックライト

逆光で撮影された映像を補正することができます。[モード]で無効、BLC、HLC、WDRの中から選択することができます。選択したバックライトモードによって詳細設定を変更することができます。

BLC

BLC (Back Light Compensation)モードは、逆光で暗く撮影された映像にユーザーが特定エリアを設定して選択エリアの対象物がよく表示されるように補正します。

BLCレベル

低、中、高の中から選択することができます。レベルが高いと、設定したエリアの明るさがより明るくなります。

> **参考事項**
> - BLC設定時、15秒ぐらい緑ボックスが画面に表示されます。
> - BLC設定時、誤動作を防ぐためにBLCエリアの上下間隔は最大60/最小40、左右間隔は最大60/最小30に制限されます。

HLC

HLC (High Light Compensation)モードは街灯や車のヘッドライトのように強い照明を効果的に遮断して強い照明の飽和によって車のナンバープレートなどの周囲にある物事が識別できないことを防止します。

HLCレベル

露出レベルを設定してハイライトエリアを調整します。
低、中、高の中から選択することができます。レベルが高いほど、補正に優れていてハイライトエリアを遮断するエリアに差があります。

マスク

マスクの適用有無を選択します。
- off：遮断エリアが生成されません。
- on：一定の明るさ以上のエリアは常時遮断されます。
- 全日：とても明るい時やとても暗い時を除けて遮断エリアが生成されます。
- 夜間のみ：とても暗くなる前まで遮断エリアが生成されます。

マスクカラー

遮断エリアカラーを設定します。

MASK TONE

遮断エリアトーンを設定します。

調光

画面の強い光エリアを検知して明るさを調整しながら、飽和エリアを減少させます。

エリア設定

遮断エリアのサイズ&位置を設定します。

- トップ：画面の上側から上面がどれだけ離れているかを設定します。
- ボトム：画面の上側から下面がどれだけ離れているかを設定します。
- 左：画面の左側から左面がどれだけ離れているかを設定します。
- 右：画面の左側から右面がどれだけ離れているかを設定します。

参考事項

- HLCを初期に設定する時、遮断エリアを表示する緑ボックスが15秒ぐらい表示されてから消えます。
- HLC設定時、誤動作を防ぐためにHLCエリアの上下間隔は最大60、最小40、左右間隔は最大60、最小30に制限されます。
- 夜間に動作する時には、暗い環境で一定面積以上ハイライトが入射される場合のみ動作します。
- 夜間に動作する時、全体的に明るい条件か暗すぎる条件ではHLCが動作されません。昼間に動作する時、暗すぎる条件ではHLCが動作されません。

WDR

WDR (Wide Dynamic Range)モードは逆光環境で暗い部分と明るい部分をすべてよく表示させる方法です。カメラのデュアルシャッターを用いて一度は明るい部分がよく表示されるようにショートシャッターで、もう一度は暗い部分がよく表示されるようにロングシャッターで撮影して二つの映像の中でよく表示される部分だけを一つに合わせて表示させる方法です。WDRモードを使用する時、明るいエリアと暗いエリアの間にノイズが発生することがあります。

WDRモードオフ　　WDRモードオン

WDRレベル

バックライトのレベルを調整します。

自動

[有効]を選択すると、映像を分析してバックライトが必要な場合、自動にWDRモードを有効にします。

ローライトオフ

[有効]を選択すると、低照度環境でWDRモードを自動にオフします。

IRオフ

[有効]を選択すると、B/Wモードが動作した時にWDRモードを自動にオフします。

参考事項

- WDRモードを選択すると、シャッター値が初期化されます。したがって画面が明るくなってから暗くなります。
- Pアイリスレンズを手動に使用したり、アンチフリッカーシャッターを使用するとWDRモードの性能が一部制限されます。
- WDRモードを使用する時、フレームレートは半分に短縮されます。
- WDRモードはカメラが屋内に設置されている状況で、強い逆光がある環境で使用することをお勧めします。
- WDRモード時、明るい部分と暗い部分の間にノイズが発生することがあります。
- WDRモード時、モーションエリアでノイズが発生することがあります。
- WDRモード時、照明条件によって下記の現象が起きることがあるためWDRモードをオフにしてください。
  - カラーの不自然な変化、画面の不自然な現象が起きる場合
  - 画面の明るい部分にノイズが発生する場合
- 画面内に明るい部分の面積によってWDR性能差があるため、最適のWDR性能実現のために設置角度を調整してください。
- 最大値を増加させると、画面に不自然な現象が起きることがあります。
- 最適のWDR性能のために露出補正のアイリスを[自動]に設定することをお勧めします。

露出補正

カメラの撮影環境に合わせて露出を変化させることができます。被写体より背景が暗い場合、露出を低く設定すると被写体が正しく表示されます。逆に被写体より背景が明るい場合、露出を多く設定すると被写体が正しく表示されます。

明るさ

画面の明るさを調整することができます。数字が大きいほど画面が明るくなります。

最小シャッター

シャッターは環境によって露出を自動に設定することができます。最小シャッター~最大シャッターの範囲まで電子シャッターが動作します。最小シャッターは低速露出時間可能範囲の最小値を意味して長い露出時間の上限を設定します。
選択した最小シャッターの値が[センサー]モードのfps値より小さい場合、暗い状況でフレームレートが短縮されることがあります。

最大シャッター

最大シャッターは高速露出時間可能範囲の最大値を意味して短い露出時間の上限を設定します。

シャッター優先

露出時間の範囲内で優先的に動作する適正露出時間を設定します。

アンチフリッカー

撮影環境にある照明と周波数の不一致で発生する画面の揺れ現象を防止します。

SSNR

映像のノイズを除去します。

- On/Off：SSNR機能の使用有無を設定します。[On]を選択すると、SSNRレベルを調整することができます。
- WISE NR：映像内に動く対象物があると、自動にノイズ削減レベルを調整して対象物の識別力を向上させます。

SSNR 2D レベル

SSNR 2Dは、一つのフレームで隣接したピクセルを使用して映像のノイズを低下させます。SSNR 2D レベル値を設定します。[SSNR]を[On]や[WISE NR]に選択した場合、設定することができます。
レベルを上げるほど、ノイズは低減するが映像がぼやけることがあります。

SSNR 3D レベル

SSNR 3Dは、複数フレームのピクセルを使用して映像のノイズを低下させます。
SSNR 3D レベル値を設定します。[SSNR]を[On]や[WISE NR]に選択した場合、設定することができます。
レベルを上げるほど、ノイズは低減するが映像に残像が発生することがあります。

レンズ

DC(自動)や手動、また使用できるPアイリス種類の中で選択することができます。

- DC(自動)：入る光の量を判断してアイリスを調整します
- マニュアル：アイリスを手動に調整します。
- Pアイリス：ステッピングモーターでアイリスを調整します。様々な距離にある複数の対象物を同時にフォーカスを合わせることができて深い深度を持つことができます。使用できるアイリス種類の中で選択することができます。

Pアイリス

[レンズ]からPアイリスを選択すると有効になります。[自動]を選択すると、明るさによってアイリスが自動に調整されます。[マニュアル]を選択すると、ユーザーが直接にアイリスの位置を設定します。

Pアイリス位置

[Pアイリス]を[マニュアル]に選択すると有効になります。Pアイリス位置を調整することができます。

AGC

AGC (Auto Gain Control)は暗い照明で被写体を撮影する時、映像Gainの感度を調整して明るさを調整することができます。

参考事項

- 最小シャッター、最大シャッターの設定範囲によって画面の露出を飽和することができます。
- WISE NRモード設定後、適用/解除されるまでは一定時間がかかります。
- WISE NRモード適用時、映像の識別力が向上される代わりにノイズが増加することがあります。
- 明るくてノイズが少ない環境では、あまりWISE NRの効果がないです。

- WISE NR設定時、映像のモーション検知は内部的にモーション検知機能を使用するためにモーション検知イベントの動作条件に従います。モーション検知の詳細設定は[分析] > [モーション検知]で確認することができます。

デイ/ナイト

カメラを使用する環境に合わせて映像をカラーやB/Wに変更することができます。また切替時間を設定すると、ユーザーが設定した時間に合わせて映像をカラーやB/Wに変更することができます。デイ/ナイト切替時には、モーション検知イベントやビデオ映像分析イベントを検知することができません。

モード

カメラがカラーやB/Wに変更されるタイプを選択します。

- 色：映像を常時カラーに出力します。
- B/W：映像を常時B/Wに出力します。
- 自動：昼間にはカラーモード、夜間や低照度の場合にはB/Wに切り替えします。但し、[露出補正]の[AGC]を[off]に設定すると、デイ/ナイトを自動に設定することができません。
- 外部：アラーム入力ポートを外部デバイスと同期した場合、映像のカラーとB/Wを制御することできます。
- スケジュール：[動作時間(カラー)]で設定したスケジュールにデイ/ナイトが変更されます。

滞留時間

デイ/ナイトを[自動]に選択した場合、設定した切替時間の間に明るさ条件が維持された時、映像をカラーやB/Wに変更します。

継続時間

カラーやB/Wに切り替え動作が起きる時間の間隔を設定します。

アラーム入力

アラームセンサーの開/閉状況によって映像をカラーやB/Wに設定することができます。[デイ/ナイト]の[モード]を[外部]に設定すると、[イベント]>[アラーム入力]機能が無効になり設定ページが表示されません。

デイ/ナイト切替後の単一フォーカス

デイ/ナイト切替後、映像のフォーカスを自動に合わせます。

動作時間(カラー)

カラーモードで動作されるスケジュールを設定します。[毎日]を選択して時間を設定すると、毎日該当時間にカラーモードに動作され該当時間を除いた残り時間はB/Wに動作されます。毎日同じ時間に設定したくない場合には[毎日]を選択解除して月、火、水、木、金、土、日曜日にそれぞれカラーモードの動作時間を設定することができます。

参考事項

- デイ/ナイト切替時、モーション検知イベントは動作しません。つまりモーション検知イベントを「有効」に設定してもデイ/ナイト切替時には検知されないという意味です。モーション検知イベントの使用有無は[分析] > [モーション検知]で設定することができます。

特別設定

映像のシャープを調整したりコントラスト、カラー調整、曇り除去などを設定することができます。

DIS

DIS (Digital Image Stabilization)は風のような外部的な要因でカメラに振動が発生する場合、映像を自動に補正して安定的に画面を出力します。

参考事項

- DIS設定を変更すると、映像画面がズームアウトされたりズームインされることがあります。変更された映像に合わせて映像を分析できるように[分析]メニューで分析設定を変更してください。

シャープネス

映像の全判的なシャープを調整します。

シャープネスレベル

映像の全判的なシャープを調整します。[シャープネス]を[on]に設定すると、シャープネスレベルを設定することができます。
シャープネスレベルが高いほど、映像のシャープが強くて鮮明になります。

ガンマ

映像のコントラストを調整します。映像で最も明るい部分と最も暗い部分の格差を意味します。ガンマの数字が高いほど、明るさの差が確かに表れます。

コントラスト

映像の影コントラストを調整します。

カラーレベル

映像でカラーの強弱を調整します。

曇り除去

霧がかかったり天気が曇った時、映像を補正します。[自動]に設定すると、周囲環境を検知して自動に映像を補正します。[マニュアル]に設定すると、ユーザーが周囲環境を見て直接補正量を設定することができます。
初期値は[off]に設定されています。

曇り除去レベル

曇り除去が[マニュアル]の場合、有効になって曇り除去レベルを調整します。曇り除去レベルが高いと、映像がより鮮やかに表示されます。曇りレベルが低くて曇り除去レベルが高いと、画面が暗く表示されることがあります。

参考事項

- 曇り除去モードを[自動]に設定した場合、曇り量が減少すると曇り除去機能も共に減少します。曇り量が減少しても設定したレベルだけの機能を実行するには、曇り除去モードを[マニュアル]に設定してください。
- 曇りレベルが低くて手動曇りレベルが高い場合、画面が真っ暗に表示されることがあります。

LDC

LDC (Lens Distortion Correction)は広角レンズの角部分の映像歪み現象を補正します。

- Off：映像の歪み補正機能を使用しません。
- マニュアル：歪み補正レベルを手動に調整します。

LDCレベル

歪み補正率レベルを調整します。[LDC]を[マニュアル]に設定すると、有効になります。

OSD

カメラタイトルまたは日付と時間を映像に表示することができます。文字の位置、サイズ、カラー、透明度などを設定することもできます。

カメラタイトル

カメラタイトルの表示有無を設定します。[有効]を選択すると、[追加]/[削除]ボタンが有効になります。
[追加]ボタンをクリックすると、リストにカメラの名称を入力できるフィールドが追加されます。カメラのタイトルを入力してX座標とY座標を動かして位置を設定します。カメラタイトルは5つまで追加することができます。
カメラタイトルを削除するには、削除する名前を選択してから[削除]ボタンをクリックします。カメラタイトルを入力した後、画面上にどう表示されるのか確認するには名前を入力してから[プレビュー]ボタンをクリックします。

日付＆時間

日付と時間を画面に表示するには、[有効]を選択します。日付表記タイプを選択した後、X座標とY座標を動かして日付と時間表示位置を設定します。

サイズ

OSDのサイズを調整します。

色

OSDのカラーを設定します。

透明性

OSDの透明度を設定します。

> **参考事項**
> - 位置調整ができる項目(カメラタイトル、日付＆時間)の場合、固定された他のOSD項目と重なる場合には正しく画面に表示されないことがあります。
> - 韓国語、英数字、記号だけ使用できます。

動作時間

カメラは常時に特定画像プリセットで動作します。お望みの時間にお望みの画像プリセットを設定して使用することができます。

Off

カメラが上で選択した画像プリセットで動作します。

スケジュール動作

ユーザーが指定した時間にお望みの画像プリセットを実行できるように設定することができます。画像プリセットを選択して開始時間と終了時間をそれぞれ設定します。カメラの使用環境に合わせて画像プリセットを時間別に設定します。

Smart codec

Smart codecは、ユーザーが好む部分をROI領域に設定してROI領域の画質はユーザが設定したどおりに維持するが、その他のエリアは標準画質で管理して映像データサイズを減らす技術です。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

手動ROI領域

ユーザーが直接カメラの映像画面でROI領域を設定することができます。画面にマウスをクリックしてドラッグすると、四角の形でROI領域が生成されます。ROI領域は最大5つまでで、エリアが重なると設定できません。[初期化]ボタンをクリックすると、設定したROI領域がすべて削除されます。

> **参考事項**
>
> - Smart codecはビデオprofile別に使用有無を設定することができます。[Basic]>[ビデオprofile]で[ビットレート制御]を[CBR]に設定した後、[Smart codec]で使用有無を設定します。「ビデオprofile」ページで「Smart codec」を「無効」に設定すると、Smart codec機能は動作しません。

Smart codec設定

画質

ユーザーが設定したROI領域の画質レベルを選択します。設定した画質レベルでROI領域を確認することができます。ROI領域の画質レベルは標準画質よりはいつも高いです。

フォーカス設定

画面のフォーカスをユーザーが直接設定したり、単一フォーカスで自動に調整することができます。また、フォーカス初期化でフォーカスを初期値位置に調整することができます。

フォーカス設定

フォーカス初期化

フォーカスを初期化するには、[フォーカス初期化]ボタンをクリックします。フォーカスが初期値位置に調整されます。
カメラを初回使用する時、フォーカス初期化実行をお勧めします。

クィックフォーカス設定

フォーカスが位置する可能範囲内でフォーカスを素早く調整します。[クィックフォーカス設定]を設定するには、[有効]を選択します。

フォーカス

画面に表示されたフォーカスボタンを押して手動にフォーカスを調整します。単一フォーカスでオートフォーカス調整が進まない場合、手動にフォーカスを調整します。
ボタンに表示された値は、フォーカス移動間隔を意味します。1はフォーカスを一度に1だけ移動、10はフォーカスを10だけ移動、100はフォーカスを100だけ移動させます。「-」値はフォーカスを近く(near)移動し、「+」値は遠く(far)移動します。
カメラレンズによってフォーカス設定方法が異なることがあります。
i-CSレンズを使用する時、ズームボタン(-100、-10、-1、1、10、100)をクリックしてお望みの倍率に調整します。i-CSレンズの他のレンズを使用する時、レンズのフォーカス(Near、Far)を手動に修正します。

単一フォーカス

画面上にユーザーが指定した位置を基準にフォーカスを自動に調整します。画面上にマウスでクリックしてからドラッグしてフォーカスを合わせる位置を設定した後、[単一フォーカス]ボタンをクリックすると画面にN(Near)<->F(Far)が表示され、ユーザーが指定した位置を基準にフォーカスを自動に調整します。

参考事項

- 下記の場合には、単一フォーカス機能が正しく動作しないことがあります。
  - フォーカス調整中、被写体に急激な変化(急激なモーション、消滅)がある場合
  - フォーカス調整中に急激な輝度の変化がある場合
  - 映像のコントラストが低い場合
  - 強い光源が周囲にある場合
  - フォーカス初期化を実行しない場合
- 上記の場合の他に単一フォーカス動作後フォーカスがよく合わない場合、ズームボタン(-100、-10、-1、1、10、100)を用いて手動でフォーカスを調整してください。
- 単一フォーカス動作が進まない環境では、手動にフォーカスを調整することをお勧めします。

ワイズストリーム

ワイズストリームは、映像の複雑度を分析して画質は維持しながらデータのサイズを効果的に減らせる機能です。カメラが撮影中の映像にモーションが多く発生しない場合、圧縮率を上げ映像のサイズを減らして帯域幅を節約します。再度モーションが発生すると、元の状況に戻して映像情報が損失されないようにします。モーションが多い環境では、不適合で画面が割れることがあります。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

ワイズストリーム

モード

ワイズストリームで映像をどのぐらい圧縮するか選択することができます。

- Off：ワイズストリーム機能を使用しません。
- 低～高：ワイズストリームを使用して適用するビットレート減少レベルを選択します。

参考事項

- ワイズストリームの性能を最適化するには、[Basic] > [ビデオprofile]メニューで[ダイナミックGOV]と[ダイナミックFPS]を[有効]に設定してください。[ダイナミックGOV]と[ダイナミックFPS]機能を有効にすると、映像画質と1秒当たりのフレーム数を両方とも確保することができます。
- 下記の場合には、ワイズストリーム機能が正しく動作しないことがあります。
  - 急激に画面を切り替えると画面割れの恐れがあります。
  - 画面上の変化が多い環境では、ワイズストリーム機能は不適切です。

DDNS

DDNS(Dynamic Domain Name Service)を利用すると、カメラのIPアドレスをユーザーが覚えやすい一般的なホスト名に変更されるように設定することができます。カメラのIPアドレスが198.160.0.100の場合、IPアドレスの代わりにhttp://ddns.hanwha-security.com/camera1のようなホスト名を入力してカメラにアクセスすることができます。カメラのIPアドレスが変更されてもDDNSアドレスでカメラにアクセスできるため便利です。
DDNSでは、ハンファテックウィン専用のWisenet DDNSを使用したりPublic DDNSを使用することができます。お望みのDDNS情報を入力した後、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。選択したDDNSに接続すると「成功」メッセージが表示され、接続されない場合「失敗」メッセージが表示されます。

参考事項

DDNSとルーターのポートフォーワーディングを共に設定すると、DDNSサービスを使用することができます。
ルーターのポートフォーワーディング設定方法は、製品に含まれている取扱説明書を参照してください。

DDNS

off

DDNSを使用しない場合に選択します。

Wisenet DDNS

ハンファテックウィンから提供するDDNSサーバーを使用する場合に選択します。
Wisenet DDNSを有効にするためには、Wisenet DDNSのウェブサイト(http://ddns.hanwha-security.com (http://ddns.hanwha-security.com))で会員登録した後、[My DDNS]>[製品登録]で先に製品を登録する必要があります。

- サーバー名：有効にするDDNSサーバー名を入力します。
- 製品ID：Wisenet DDNSサーバーに登録された製品のIDを入力します。
  UPnP(Universal plug and play)機能に対応するルーターを使用する時、[クイック接続]を選択すると外部からアクセスする時、自動にポートを開くように対応します。

参考事項

- ルーターがUPnP機能に対応しないか、[クイック接続]を使用せずにDDNSサーバーを使用するためにはルーターのポートフォーワーディングを手動で設定してください。ルーターのポートフォーワーディング設定方法は、製品に含まれている取扱説明書を参照してください。

Wisenet DDNSに製品登録

Wisenet DDNSを使用するためには、まずWisenet DDNSに製品を登録する必要があります。

1. Wisenet DDNSのウェブサイト(http://ddns.hanwha-security.com)で会員登録します。
2. ウェブサイトのトップメニューで[My DDNS]>[製品登録]を選択します。
3. 製品IDを入力します。
4. [区分]、[型名]を選択します。
5. 必要な場合、位置と詳細情報を入力します。
6. [製品登録]ボタンをクリックします。登録された製品Infoをリストで確認することができます。

Public DDNS

公開サイトから提供するDDNSサーバーを使用する場合に選択します。該当サイトでサービスに加入してから使用します。

- サーバー名：有効にするPublic DDNSサーバーを選択します。
- ホスト名：DDNSサーバーに登録されたホスト名を入力します。
- ユーザー名：DDNSサーバー用のユーザー名を入力します。
- password：DDNSサーバー用のパスワードを入力します。

IPフィルタリング

特定IPへのアクセスを許可したり拒否するようにIPアドレスリストを作成することができます。IPv4とIPv6を区分してIPアドレスを管理します。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

フィルタリング形式

[拒否]と[許可]のフィルタリング条件は、すべてのIPアドレスに適用されます。

- 拒否：登録されたIPのアクセスを拒否します。
- 許可：登録されたIPのみアクセスを許可します。

参考事項

- アクセスを許可したIPを登録する時は、現在カメラにアクセス中のIPを必ず登録する必要があります。特に[Basic]>[IP & ポート]>[IPv6設定]を[使用]に選択した場合には、現在カメラにアクセス中のIPアドレスのIPv4とIPv6アドレスをすべて追加する必要があります。
- 現在、アクセス中のIPアドレスは[拒否]に登録することができません。

IPv4

IPv4タイプのアドレスリストでIPアドレスを追加したり削除することができます。IPアドレスは最大10個まで保存することができます。

IPv4アドレス追加

1. [追加]ボタンをクリックします。IPv4アドレスを入力できるフィールドが生成されます。
2. IPとPrefixの情報を入力します。入力した情報に対してフィルタリング範囲が表示されます。
3. [使用]のチェックボックスにチェックすると、該当フィルタリング範囲に対してフィルタリングすることができます。
4. すべての情報を入力した後、ページの下にある[適用]ボタンをクリックすると、入力した情報がリストに保存されます。

IPv4アドレス削除

1. 削除するIPv4アドレスを選択します。
2. [削除]ボタンをクリックします。
3. 削除確認ポップアップで[OK]ボタンをクリックします。IPv4アドレスが削除されます。

参考事項

- マルチキャストに使用される224.0.0.0～239.255.255.254のアドレスは使用できません。

IPv6

IPv6タイプのアドレスリストでIPアドレスを追加したり削除することができます。IPアドレスは最大10個まで入力することができます。

IPv6アドレス追加

1. [追加]ボタンをクリックします。IPv6アドレスを入力できるフィールドが生成されます。
2. IPとPrefixの情報を入力します。入力した情報に対してフィルタリング範囲が表示されます。
3. [使用]のチェックボックスにチェックすると、該当フィルタリング範囲に対してフィルタリングすることができます。
4. すべての情報を入力した後、ページの下にある[適用]ボタンをクリックすると、入力した情報がリストに保存されます。

IPv6アドレス削除

1. 削除するIPv6アドレスを選択します。
2. [削除]ボタンをクリックします。
3. 削除確認ポップアップで[OK]ボタンをクリックします。IPv6アドレスが削除されます。

HTTPS

保安接続方式を選択したり、公認証明書をインストールすることができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

保安接続方式

保安レベルを考えて使用環境に合う保安接続方式を選択します。HTTPS (HyperText Transfer Protocol over Secure Socket Layer)は、ハイパーテキスト伝送規約階層の下にあるSSLサブ階層でユーザーのページリクエストを暗号化、復号化する過程でデータを送受信します。したがって、保安上HTTPモードより安全だと考えられます。
HTTPSモードに保安接続する時、自体証明書を使用するか公認証明書を使用するかを選択できます。

HTTP(保安接続未使用)

暗号化せずにデータを伝送する時に選択します。

HTTPS(自体認証保安接続モード)

カメラが提供する自体証明書を使用して保安接続します。[HTTPS(自体認証保安接続モード)]を選択した後、ページの下にある[適用]ボタンをクリックすると、HTTPSモードに保安接続します。

HTTPS(公認保安接続モード)

公認証明書を使用して保安接続します。先に公認証明書をインストールした後、選択することができます。[HTTPS(公認保安接続モード)]を選択した後、ページの下にある[適用]ボタンをクリックすると、HTTPSモードに保安接続します。

公認証設定

[保安接続方式]で[HTTPS(公認保安接続モード)]を選択するためには、まず公認証明書をインストールする必要があります。

- 証明書名：インストールする証明書名を入力します。
- 証明書ファイル：インストールする証明書のパスを選択します。
- キーファイル：インストールするキーファイルのパスを選択します。

参考事項

- [HTTPS(公認保安接続モード)]モードが適用された状況では、公認証明書をインストールしたり削除できません。必ず[HTTP(保安接続未使用)]か[HTTPS(自体認証保安接続モード)]モードに変更した後、証明書をインストールしたり削除してください。

公認証設定

1. [証明書名]にインストールする証明書名を入力します。

2. [証明書ファイル]で[...]ボタンをクリックした後、開くポップアップで証明書ファイルを選択してから[開く]ボタンをクリックします。
3. キーファイルで[...]ボタンをクリックした後、開くポップアップでキーファイルを選択してから[開く]ボタンをクリックします。
4. [インストール]ボタンをクリックします。証明書のインストールが完了されます。

公認証削除

[公認証設定]の下にある[削除]ボタンをクリックします。

802.1x

ネットワークにアクセスする時、802.1xプロトコルの使用有無を選択して証明書をインストールすることができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

IEEE 802.1x 設定

IEEE 802.1x

ネットワークにアクセスする時、IEEE 802.1xプロトコルを有効にするには[有効]を選択します。IEEE 802.1xは、IEEE 802.1というネットワークプロトコルグループの一部分でポートベースのネットワークアクセス制御(port-based Network Access Control – PNAC)に関するIEEEの標準です。主に無線LAN(WIFI)環境で保安を強化するために使用されます。

EAPタイプ

EAP (Extensible Authentication Protocol)は、無線ネットワークとポイントツーポイントプロトコル (Point to Point Protocol)で規定された認証タイプに拡張しやすいように設計されたプロトコルです。LEAPタイプが保安に弱い認証タイプであるため、EAP-TLSを使用できない環境でのみ使用することをお勧めします。

- EAP-TLS：EAP-TLS (Transport Layer Security)は、サーバーとクライアント証明書を必要とする相互認証を行い、アクセスされてからの保安を考えて動的WEPキーを使用します。
- LEAP：LEAP (Lightweight Extensible Authentication Protocol)は証明書を要求せずに動的WEPキーだけを使用するため、必ず強力なパスワードを使用する必要があります。

EAPOLのバージョン

ネットワークスイッチで使用される[EAPOL] (EAP over LANs)のバージョンを[1]または[2]の中で選択します。

ID

[EAP-TLS]ではクライアント証明書IDを入力し、[LEAP]ではユーザーIDを入力します。

Password

[EAP-TLS]ではクライアントのプライベートキーパスワードを入力し、[LEAP]ではユーザーのパスワードを入力します。[EAP-TLS]で暗号化されてないキーファイルを使用する場合、入力する必要はありません。

参考事項

- アクセスされたネットワークデバイスが802.1xに対応しない場合、802.1xを[有効]に設定しても正しく動作しない場合があります。

証明書

証明書は[EAP-TLS]を有効にする場合のみ必要です。該当する証明書とキーをインストールしたり削除することができます。

- CA証明書：公開キーが含まれた公認証明書の場合に選択します。
- クライアント証明書：クライアント認証キーが含まれた公認証明書の場合に選択します。
- クライアントのプライベートキー：クライアントのプライベートキーが含まれた公認証明書の場合に選択します。

証明書インストール

1. [...]ボタンをクリックして証明書またはキーを選択した後、[開く]ボタンをクリックします。
2. [インストール]ボタンをクリックします。証明書をインストールすると、「インストール済み」というメッセージが表示されます。

証明書削除

インストールされた証明書またはインストールされたキーの後ろにある[削除]ボタンをクリックします。証明書またはキーが削除されると、「使用不可」というメッセージが表示されます。

QoS

QoS(Quality of Service)は、ネットワーク網に過負荷(同時アクセス量増加、ネットワーク障害発生など)が発生した時にデータ伝送の優先順位を決めて設定された優先順位にデータ伝送品質を保障する機能です。QoSを適用するIPアドレスをIPv4またはIPv6タイプに入力することができます。設定を完了した後、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

IPv4

QoSを適用するIPアドレスをIPv4タイプに追加したり削除することができます。初期値でPrefixは32、DSCPは63に設定されています。

- Prefix：IPの範囲を設定できる値で、IPv4の場合には1～32まで設定することができます。
- DSCP：DSCP (Differentiated Services Code Point)は、QoSの優先順位を意味します。DSCP値は、0から63まで設定することができます。値が0に近いほど優先順位が低くなります。

参考事項

- マルチキャストに使用される224.0.0.0～239.255.255.254アドレスは使用できません。

IPv4アドレス追加

1. [追加]ボタンをクリックします。IPv4アドレスを入力できるフィールドが生成されます。
2. IP、Prefix、DSCP情報を入力します。
3. [使用]のチェックボックスにチェックすると、該当IPv4アドレスにQoSを適用することができます。
4. すべての情報を入力した後、ページの下にある[適用]ボタンをクリックすると、入力した情報がリストに保存されます。

IPv4アドレス削除

1. 削除するIPv4アドレスを選択します。
2. [削除]ボタンをクリックします。
3. 削除確認ポップアップで[OK]ボタンをクリックします。IPv4アドレスが削除されます。

IPv6

QoSを適用するIPアドレスをIPv6タイプに追加したり削除することができます。初期値でPrefixは128、DSCPは63に設定されています。

- Prefix：IPの範囲を設定できる値で、IPv6の場合には1～128まで設定することができます。
- DSCP：DSCP(Differentiated Services Code Point)は、QoSの優先順位を意味します。DSCP値は、0から63まで設定することができます。値が0に近いほど優先順位が低くなります。

IPv6アドレス追加

1. [追加]ボタンをクリックします。IPv6アドレスを入力できるフィールドが生成されます。
2. IP、Prefix、DSCP情報を入力します。

3. [使用]のチェックボックスにチェックすると、該当IPv6アドレスにQoSを適用することができます。
4. すべての情報を入力した後、ページの下にある[適用]ボタンをクリックすると、入力した情報がリストに保存されます。

IPv6アドレス削除

1. 削除するIPv6アドレスを選択します。
2. [削除]ボタンをクリックします。
3. 削除確認ポップアップで[OK]ボタンをクリックします。IPv6アドレスが削除されます。

SNMP

SNMP (Simple Network Management Protocol)は、ネットワーク管理プロトコルでネットワーク上のデバイスから情報を収集してネットワークを管理することができます。設定を完了した後、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

SNMP v1/v2c

SNMP v1プロトコルは、暗号化されていないため保安機能がほとんどありません。また、帯域幅を非常に多く使用するためデバイスが多い場合にはネットワーク管理できないことがあります。SNMP v2cプロトコルは、データと認証保安のためにアルゴリズムが追加され、SNMP v1より効率的に帯域幅を使用するようになりました。

SNMP v1

SNMP v1を有効にするためには、[有効]を選択します。

SNMP v2c

SNMP v2cを有効にするためには、[有効]を選択します。[SNMP v2c]を選択すると、リードコミュニティとライトコミュニティが有効になります。

リードコミュニティ

SNMP情報にアクセスするためのリード専用のコミュニティ名を入力します。初期値はpublicです。

ライトコミュニティ

SNMP情報にアクセスするためのライト専用のコミュニティ名を入力します。初期値はwriteです。

SNMP v3

SNMP v3は認証タイプが変更されv1、v2cより保安が強化されてデータ変形なしに伝送することができます。また、承認されてないユーザーがデータにアクセスできないようにパケットを暗号化しました。

SNMP v3

SNMP v3を有効にするためには、[有効]を選択します。

Password

SNMP v3のユーザーパスワードを設定します。パスワードは8文字以上16文字まで使用することができます。初期設定されたパスワードは保安に弱いため、製品をインストールしてからすぐ新しいパスワードに変更することをお勧めします。初期設定されたパスワードによる保安&その他の問題に関する責任はユーザーにあるのでご注意ください。

参考事項

- SNMP v3を有効にするには、「保安接続方式」を「HTTPS」モードに設定する必要があります。[ネットワーク]> [HTTPS] (ssl.html)> [保安接続方式]で[HTTPS(自体認証保安接続モード)]や[HTTPS(公認保安接続モード)]を選択してください。
- SNMP v3を無効にする場合、保安に問題が発生することがあります。

SNMPトラップ

SNMPトラップは、ネットワーク上にあるデバイスに特定なイベントが発生した時、管理システムにイベントを知らせる機能です。

SNMPトラップ

SNMPトラップを有効にするためには、[有効]を選択します。

コミュニティ

メッセージを受けるトラップコミュニティ名を入力します。

IPアドレス

メッセージを送るIPアドレスを入力します。

- 認証失敗：コミュニティ情報が正しくない場合、管理システムにあるイベント伝達有無を設定します。
- ネットワーク接続：切断されたネットワークに再接続された場合、管理システムにあるイベント伝達有無を設定します。

自動IP設定

カメラIPを自動に設定することができます。同一のローカル網でカメラにアクセスできるIPアドレスを追加に割り当てるか、WindowsやMac OSでネットワークにアクセスされたカメラを確認できるように設定することができます。設定を完了した後、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

リンクローカルIPv4アドレス

同一のローカル網でカメラにアクセスできる追加IPを割り当てることができます。

自動設定

リンクローカルIPv4アドレスの自動設定を有効にするには、[有効]を選択します。

- IPアドレス：割り当てられたIPアドレスが表示されます。
- Subnet Mask：割り当てられたIPのSubnet Maskが表示されます。

UPnP検索

UPnP(Universal Plug and Play)プロトコルに対応するクライアントとOSで自動にカメラを検索することができます。

UPnP検索

UPnP検索を有効にするためには、[有効]を選択します。

- ユーザーフレンドリ名：カメラの名前が表示されます。ユーザーフレンドリ名は、WISENET-型名-MACアドレスの手順に表示されます。

Bonjour

Bonjourプロトコルに対応するクライアントとOSで自動にカメラを検索することができます。Bonjourを初期値に対応するMac OSでは、SafariウェブブラウザのBonjourブックマークでアクセスされたカメラが表示されます。

Bonjour

Bonjourを有効にするためには、[有効]を選択します。

- ユーザーフレンドリ名：カメラの名前が表示されます。ユーザーフレンドリ名は、WISENET-型名-MACアドレスの手順に表示されます。

参考事項

- ブックマークが表示されない場合、PreferenceメニューのBookmarksを確認してください。

イベント設定

カメラが対応するイベントとイベントアクションをまとめて管理することができます。現在のページでイベントアクションの設置値を変更すると、各イベント別の詳細設定ページアクション設定値も同一に変更されます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

イベントリスト

- 使用：[使用]カラムでチェックボックスを選択すると、選択したイベントのみ動作します。
- タイプ：[タイプ]カラムでイベント名を選択すると、該当イベントの詳細設定ページに移動します。
- イベントアクション：イベントが発生した時、カメラがどのイベントアクションを行うか設定します。
  - FTP：映像画面をキャプチャーしてFTPサーバーに伝送するには、[FTP]カラムのチェックボックスを選択します。FTPに対する詳細設定は、[イベント]>[FTP/E-mail]で行うことができます。
  - E-mail：映像画面をキャプチャーしてE-mailに伝送するには、[E-mail]カラムのチェックボックスを選択します。E-mailに対する詳細設定は、[イベント]>[FTP/E-mail]で行うことができます。
  - 録画：映像を保存するには、[録画]カラムのチェックボックスを選択します。保存に関する詳細設定は、[イベント]>[録画]で行うことができます。
  - アラーム出力：イベントが発生した時、アラームを出力したくない場合、[無効]を選択してアラームを出力したい場合、出力時間を選択します。[常時動作]を選択してユーザーがアラームを止めるまで出力し続けるようにしたり5、10、15秒まで出力するように設定することができます。アラーム出力に関する詳細設定は、[イベント]>[アラーム出力]で行うことができます。
  - プリセットに移動：カメラが指定したPTZプリセット位置に移動します。

参考事項

- カメラが対応するアラーム個数によって、アラーム出力カラムの表示が異なります。例えば、出力されるアラームが2つである場合「アラーム出力1」「アラーム出力2」のカラムが表示され、イベント別にアラーム出力を設定することができます。

ハンドオーバ

ハンドオーバーはイベントが発生した時、PTZカメラに設定しておいたPTZプリセット位置に移動する機能です。このページではプリセット位置に移動するカメラとプリセット位置を設定することができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

レシーバカメラ

受信用のPTZカメラを追加・削除することができます。レシーバカメラは、最大32台まで登録することができます。
レシーバカメラに登録したカメラの情報が表示されます。

レシーバカメラ追加

1. [追加]ボタンをクリックします。
2. [カメラの追加]でハンドオーバーを受信するPTZカメラ情報を入力します。
   - 番号：レシーバカメラNo.を設定します。[アナリティクス]下位メニューでハンドオーバーのレシーバカメラを設定する時、レシーバカメラNo.を利用します。
   - IPタイプ：IPv4とIPv6の中でIPアドレスタイプを設定します。
   - IPアドレス：レシーバカメラのIPアドレスを入力します。
   - ポート：レシーバカメラのポートNo.を入力します。
   - ユーザー：レシーバカメラに接続するための接続IDを入力します。
   - password：レシーバカメラに接続するためのパスワードを入力します。
   - プリセットNo.：レシーバカメラが移動するプリセット位置No.を入力します。受信のためのPTZカメラにプリセットNo.をすでに設定する必要があります。ハンドオーバーメニューでは、すでに設定しておいたPTZプリセットNo.を入力します。
3. [適用]をクリックします。

レシーバカメラ削除

1. レシーバカメラリストでチェックボックスをクリックして削除するカメラを選択します。
2. [削除]ボタンをクリックした後、確認ポップアップが表示されたら[確認]をクリックします。

FTP/E-mail

カメラが映像を撮影している間、イベントが発生する場合にはカメラが撮影した画像をFTPサーバーまたはE-mailに伝送することができます。この時に使用されるFTPサーバーとE-mail設定情報を入力します。
FTPサーバーまたはE-mailサーバー情報を入力してページの下にある[適用]ボタンをクリックすると、FTPサーバー接続テストまたはテストE-mail送信を実行します。正しくないFTPサーバーまたはE-mailサーバーアドレスを入力した場合、「失敗」というメッセージが表示されます。

FTP設定

サーバーアドレス

イベント発生時点の画像を伝送するFTPサーバーのIPアドレスを入力します。

ID

FTPサーバーにログインするアカウントのIDを入力します。

Password

FTPサーバーにログインするアカウントのパスワードを入力します。

アップロードディレクトリ

イベント発生時、撮影された画像を保存するFTPサーバーのパスを入力します。

ポート

FTPサーバーのポート値を入力します。FTPサーバーのポート初期値は21で、FTPサーバーの設定によってポートを変更することができます。ポートは1～65535番の範囲内で変更することができます。

パッシブモード

ファイアウォールやFTPサーバー設定によってパッシブモードで接続する必要がある場合、[有効]を選択します。

E-mail設定

サーバーアドレス

イベント発生時点の画像をE-mailに送るためにE-mailのSMTPサーバーアドレスを入力します。

認証

メールを送るたびにIDとパスワードを入力して認証するかしないかを選択します。

TLS 使用

TLSの使用有無を設定します。保安が必要なE-mailサーバーの場合、[有効]を選択します。

ID

E-mailのSMTPサーバーにログインするアカウントのIDを入力します。

Password

E-mailのSMTPサーバーにログインするアカウントのパスワードを入力します。

ポート

E-mailのSMTPサーバーのポート値を入力します。E-mailサーバーのポート初期値は25で、TLSを使用する場合のポート値は465です。

受信者

E-mail受信者のE-mailアドレスを入力します。

発信者

E-mail発信者のE-mailアドレスを入力します。発信者のアドレスが正しくない場合、E-mailサーバーがメールを伝送しないことがあります。

題名

イベント発生時に送るE-mailの題名を入力します。

メッセージ

イベント発生時に送るE-mailのメッセージを入力します。イベントが発生すると、撮影された画像はE-mailの添付ファイルに伝送されます。

ストレージ

カメラ映像を保存するデバイスを選択して保存条件を設定することができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

ストレージアクションの設定

ストレージ用デバイスの種類を選択して[使用]を選択すると、該当デバイスに対する設定を変更することができます。
デバイスにデータが正常的に保存されている場合、デバイスリストの[状況]に「保存中」と表示されます。[状況]に「エラー」と表示されると、ストレージ用デバイスが正しく接続されているか確認してください。
SDカードとNASを同時に[使用]と設定すると、NASを優先に処理します。

- SDカード：SDカードの使用有無を設定することができます。SDカードが認識されると使用可能容量、全体容量、状況が表示されます。SDカードをフォーマットするには、[フォーマット]ボタンをクリックします。
- NAS：NAS (Network Attached Storage)の使用有無を設定することができます。NASに接続したら使用可能容量、全体容量、状況が表示されます。NASの設定上のデフォルトフォルダをフォーマットするには、[フォーマット]ボタンをクリックします。

オーバーライト

SDカードまたはNASのオーバーライト機能使用有無を設定します。デバイスの容量がフルの場合、一番古いデータを削除して新しいデータを保存します。デバイスの容量がフルになると、デバイスリストの[状況]に「フル」というメッセージが表示されます。

自動削除

自動削除機能の使用有無を設定します。現在の時間を基準に設定した自動削除日数だけのデータを残して過去のデータは自動に削除します。自動削除日は、最小1日から最大180日まで設定することができます。[自動削除]機能は[オーバーライト]を[有効]に設定した時のみ有効になります。

参考事項

- デバイスリストで[状況]が「エラー」に表示されると、ストレージ用デバイスが正しく接続されているかストレージ用デバイスのファイルシステムが損傷されていないか、ストレージ用デバイスが物理的に損傷されていないかを確認します。ストレージ用デバイスを確認したにもかかわらず「エラー」メッセージが表示され続けたら、デバイスをフォーマットしたり交換します。
- NAS使用時、一時的なネットワーク切断によって映像データが保存されない場合があるため、SDカードと共に使用することをお勧めします。
- 高解像度、高いビットレート、高いフレームレートなどを設定すると、映像データ量が増加します。データ量が増加すると、フルフレームに設定してもフレームスキップが発生することがあります。フレームスキップが発生すると、最小1秒当たり1枚以上の映像に保存します。
- Micro SDカードを除去する時には、[無効]に変更してからカードを除去してください。[無効]に変更せずに任意で除去したり不安定な電源にカメラを接続させるとMicro SDカードが損傷される場合があります。
- 推奨速度以下のMicro SDメモリカードを使用する場合、フレームスキップが発生することがあります。 容量が大きいMicro SDメモリカードを使用する場合、フォーマット速度が遅

くなることがあります。

SDファイルシステム

本メニューは、[ストレージアクションの設定]の[デバイス]カラムで[SD]を選択してから表示され、SDカードのファイルシステムを選択することができます。SDカードはVFATとEXT4のファイルシステムに対応するため、使用するカメラのSDカードに合わせてファイルシステムを選択してください。SDカードのファイルシステムがEXT4の場合、ウィンドウOSが認識するためには別途のアプリケーションが必要です。

タイプ

SDカードのファイルシステムをVFATまたはEXT4の中で選択します。設定を変更する時、既存のデータはフォーマットされるため、設定を変更する前には必ずデータをバックアップします。

参考事項

- SDカードはHigh Endurance SD Cardの使用をお勧めします。詳細は、ハンファテックウィンのウェブサイトを参照してください。
- EXT4ファイルシステムでSDカードをフォーマットする時、最大10分ほどかかります。

NAS接続設定

本メニューは、[ストレージアクションの設定]の[デバイス]カラムで[NAS]を選択してから表示され、NASの接続情報を入力することができます。NAS情報を入力した後、[テスト]ボタンをクリックして正しくNASに接続されたか確認します。正しく接続された場合、(成功)というメッセージが表示され、接続されなかった場合、(失敗)というメッセージが表示されます。

IPアドレス

NASのIPアドレスを入力します。

ID

NASに登録されたアカウントのIDを入力します。

Password

NASに登録されたアカウントのパスワードを入力します。

デフォルトフォルダ

映像データを保存するNASのデフォルトフォルダを指定します。

参考事項

- NAS情報を入力した後、テストして失敗メッセージが表示されたら下記の事項を確認します。
  - NASのIPアドレス、ID、パスワード、デフォルトフォルダが正しく入力されているか確認します。

- NAS IPアドレスとカメラIPアドレスのタイプが同一なのか確認します。(例：NAS&カメラサブネットマスクの初期値は255.255.255.0です。IPアドレスが192.168.20.32の場合、NAS IPアドレスは192.168.20.1 ~ 192.168.20.255の間である必要があります。
- NASデフォルトフォルダは重複なく一台のカメラで1つのフォルダ使用を原則とします。
- 推奨するNASデバイスか確認します。ユーザーマニュアルの「NAS推奨仕様」を参照します。

- NASの録画設定中、[オーバーライト]機能を使用せずにNAS使用可能容量が20%以下の場合、録画映像がSDカードに保存されます。
- NASにデータを保存中の場合、他のカメラで使用したSDカードを挿入すると録画映像が保存されないことがあります。
- NASにデータを保存している間には、NAS設定を変更してもすぐ反映されません。
- NASにデータを保存している間にNASデバイスを任意に除去したり、ネットワークが切断されるとNASストレージアクションは異常に終了されることがあります。
- 高解像度、高いビットレート、高いフレームレートなどを設定すると、映像データ量が増加します。データ量が増加すると、フルフレームに設定してもフレームスキップが発生することがあります。フレームスキップが発生すると、最小1秒当たり1枚以上の映像に保存します。
- すでに録画中なのか使用したデフォルトフォルダをフォーマットせずに他のユーザーとして接続しようとしたのか確認してください。

録画設定

録画Profile

録画する時に使用されるビデオprofile名が表示されます。[Basic]>[ビデオprofile]>[Profileタイプ]で「録画Profile」に設定したProfileが表示されます。

通常録画

イベントがない一般的な状況でいつも一定なフレームレートで映像を録画するタイプを設定します。

- 無し：カメラ映像を録画しません。
- Iフレーム：通常録画時、Iフレームだけを録画します。
- フルフレーム：通常録画時、フルフレームを録画します。

イベント録画

イベントが発生した時に録画するタイプを設定します。

- Iフレーム：イベント発生時、Iフレームだけを録画します。
- フルフレーム：イベント発生時、フルフレームを録画します。

プリイベント持続時間

イベントが発生する直前の画像保存時間を設定します。イベント発生時間を基準に1、3、5秒前まで画像を保存することができます。

ポストイベント持続時間

イベントが発生した後の画像保存時間を設定します。イベント発生時間を基準に5、10、30、60、120秒後まで画像を保存することができます。

レコードファイルの種類

映像を保存するファイルタイプを設定します。保存ファイルタイプを変更すると、既存のデータがフォーマットされます。

- STW：ハンファテックウィン独自のファイルタイプです。
- AVI：一般のAVIファイルタイプです。

通常録画設定

映像をストレージ用デバイスに録画する時間を設定することができます。

常時録画

映像をストレージ用デバイスに常時録画します。

スケジュール動作

設定した時間のみ映像を録画します。[スケジュール動作]を選択して表示されるタイムテーブルには、現在のカメラ時間を基準とした日曜日から土曜日までの日付が表示されます。タイムテーブルでマウスをクリックしたりドラッグしてイベントアクション時間を設定することができます。設定されたイベントアクションスケジュールは、該当曜日と時間に繰り返して実行されます。
[1分]、[30分]、[1時]ボタンをクリックして、タイムビュー単位を変更することができます。[初期化]ボタンをクリックすると、設定されたイベントアクションスケジュールがすべて削除されます。カメラ時間を確認するか変更するためには、[Basic]>[日付＆時間]を参照してください。

アラーム出力

ユーザーがアラームを出力したり、イベントが発生してアラームに出力される時、アラームをどう制御するかを設定します。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。アラーム出力イベントに対する設定は、[イベント]>[イベント設定]ページの[アラーム出力]に同じく適用されます。
アラーム出力タイプの設定変更時、Monitoringページのアラーム出力ボタンとイベント設定のアラーム出力のタイプが変更されます。

アラーム出力No.

アラーム出力No.を選択してアラーム出力に対する詳細設定を変更することができます。
カメラごとに対応するアラーム出力数が異なります。カメラが対応するアラーム出力数だけアラーム出力No.が表示されます。

アラーム出力

タイプ

アラーム出力タイプを選択します。

- ノーマルオープン：アラーム出力センサーが基本的に開いた状態で、閉じられた状態になるとアラームを出力します。
- ノーマルクローズ：アラーム出力センサーが基本的に閉じられた状態で、開いた状態になるとアラームを出力します。

モード

アラームを出力する時、制御タイプを設定します。

- パルス：[継続時間]で設定した時間の間、アラームが出力され自動にアラームがオフになります。
- 有効/無効：ライブ画面でアラーム出力ボタンを押すと、アラームが出力され再度押すとアラームがオフになります。

継続時間

[モード]で[パルス]を選択した時、アラーム出力時間を設定します。

アラーム入力

アラームが入力されると、アラーム入力イベントを発生させることができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。アラーム入力イベントに対する設定は、[イベント]>[イベント設定]ページの[アラーム入力]に同じく適用されます。

アラーム入力No.

アラーム入力No.を選択してアラーム入力に対する詳細設定を変更することができます。カメラごとに対応するアラーム入力数が異なります。

アラームデバイス設定

入力デバイス設定

[アラーム入力No.]で選択したアラームデバイスを使用するには、[有効]を選択します。

タイプ

アラーム入力タイプを選択します。

- ノーマルオープン：アラーム入力センサーが基本的に開いた状態で、閉じられた状態になるとアラームに認識してアラーム入力イベントを発生させます。
- ノーマルクローズ：アラーム入力センサーが基本的に閉じられた状態で、開いた状態になるとアラームに認識してアラーム入力イベントを発生させます。

イベントアクション

FTP

アラーム入力イベントが発生した時、映像の画像をFTPサーバーに保存するには[有効]を選択します。FTPに対する詳細設定は、[イベント]>[FTP/E-mail]で行うことができます。

E-mail

アラーム入力イベントが発生した時、映像の画像をE-mailに伝送するには[有効]を選択します。E-mailに対する詳細設定は、[イベント]>[FTP/E-mail]で行うことができます。

録画

アラーム入力イベントが発生した時、SDカードまたはNASに映像を保存するには[有効]を選択します。保存に関する詳細設定は、[イベント]>[保存]で行うことができます。

アラーム出力

アラーム入力イベントが発生した時、特定のアラームNo.でアラーム出力されるように設定することができます。アラーム出力No.を選択した後、アラームを出力したくない場合、[無効]を選択してアラームを出力したい場合、出力時間を選択します。[常時動作]を選択してユーザーがアラームを止めるまで出力し続けるようにしたり5、10、15秒まで出力するように設定することができます。アラーム出力に関する詳細設定は、[イベント]>[アラーム出力]で行うことができます。
カメラが対応する出力アラーム個数によって、アラーム出力オプションの表示が異なります。例えば出力されるアラームが2つなら、「アラーム出力1」、「アラーム出力2」とオプションが表示されます。

プリセットに移動

アラーム入力イベントが発生した時、カメラビュー位置をすでに設定しておいたプリセットNo.に移動するように設定することができます。カメラプリセットは、[PTZ]>[デジタルPTZ]や[外部PTZ]の[プリセット]で設定することができます。

イベント動作時間

アラーム入力イベントが発生した時、[イベントアクション]で設定したイベントアクションが常時動作するように設定したり、スケジュール動作するように設定します。

常時動作

アラーム入力イベントが発生した時、設定したイベントアクションを常に実行します。

スケジュール動作

設定した時間にアラーム入力イベントが発生した時、設定したイベントアクションを実行します。[スケジュール動作]を選択して表示されるタイムテーブルには、現在のカメラ時間を基準とした日曜日から土曜日までの日付が表示されます。タイムテーブルでマウスをクリックしたりドラッグしてイベントアクション時間を設定することができます。設定されたイベントアクションスケジュールは、該当曜日と時間に繰り返して実行されます。
[1分]、[30分]、[1時]ボタンをクリックして、タイムビュー単位を変更することができます。[初期化]ボタンをクリックすると、設定されたイベントアクションスケジュールがすべて削除されます。カメラ時間を確認するか変更するためには、[Basic]>[日付＆時間]を参照してください。

時間スケジュール

時間スケジュールイベントは、伝送間隔に設定したイベントアクションスケジュールに合わせて画像ファイルを伝送することができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。時間スケジュールイベントに対する設定は、[イベント]>[イベント設定]ページの[時間スケジュール]に同じく適用されます。

タイマーイベント設定

イベントスケジュールを有効にするためには、[有効]を選択します。

伝送間隔

画像の伝送間隔を設定します。何秒または何分当たりに画像一枚ずつイベントで発生させるか設定します。ドロップダウンメニューをクリックして数字と単位を選択します。

イベントアクションの設定

FTP

時間スケジュールイベントが発生した時、映像の画像をFTPサーバーに保存するには[有効]を選択します。FTPに対する詳細設定は、[イベント]>[FTP/E-mail]で行うことができます。

イベント動作時間

時間スケジュールイベントが発生した時、[イベントアクションの設定]で設定したイベントアクションが常時動作するように設定したり、スケジュール動作するように設定します。

常時動作

時間スケジュールイベントが発生した時、設定したイベントアクションを常に実行します。

スケジュール動作

決まった曜日の決まった時間のみ、周期的に設定された動作を実行します。[スケジュール動作]を選択して表示されるタイムテーブルには、現在のカメラ時間を基準とした日曜日から土曜日までの日付が表示されます。タイムテーブルでマウスをクリックしたりドラッグしてイベントアクション時間を設定することができます。設定されたイベントアクションスケジュールは、該当曜日と時間に繰り返して実行されます。
[1分]、[30分]、[1時]ボタンをクリックして、タイムビュー単位を変更することができます。[初期化]ボタンをクリックすると、設定されたイベントアクションスケジュールがすべて削除されます。カメラ時間を確認するか変更するためには、[Basic]>[日付＆時間]を参照してください。

参考事項

- 設定した動作時間の間隔より伝送間隔を小さく設定しなければ画像は伝送されません。

ネットワーク切断

ネットワーク接続が物理的に切断される場合にイベントを発生させることができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。ネットワーク切断イベントに対する設定は、[イベント]>[イベント設定]ページの[ネットワーク切断]に同じく適用されます。

ネットワーク切断

ネットワーク切断イベントを有効にするためには、[有効]を選択します。

イベントアクションの設定

録画

ネットワーク切断イベントが発生した時、SDカードまたはNASに映像を保存するには[有効]を選択します。保存に関する詳細設定は、[イベント]>[録画]で行うことができます。

アラーム出力

ネットワーク切断イベントが発生した時、特定のアラームNo.でアラーム出力されるように設定することができます。アラーム出力No.を選択した後、アラームを出力したくない場合、[無効]を選択してアラームを出力したい場合、出力時間を選択します。[常時動作]を選択してユーザーがアラームを止めるまで出力し続けるようにしたり5、10、15秒まで出力するように設定することができます。アラーム出力に関する詳細設定は、[イベント]>[アラーム出力]で行うことができます。
カメラが対応する出力アラーム個数によって、アラーム出力オプションの表示が異なります。例えば出力されるアラームが2つなら、「アラーム出力1」、「アラーム出力2」とオプションが表示されます。

プリセットに移動

ネットワーク切断イベントが発生した時、カメラビュー位置をすでに設定しておいたプリセットNo.に移動するように設定することができます。カメラプリセットは、[PTZ]>[デジタルPTZ]や[外部PTZ]の[プリセット]で設定することができます。

イベント動作時間

ネットワーク切断イベントが発生した時、[イベントアクションの設定]で設定したイベントアクションが常時動作するように設定したり、スケジュール動作するように設定します。

常時動作

ネットワーク切断イベントが発生した時、設定したイベントアクションを常に実行します。

スケジュール動作

設定した時間にネットワーク切断イベントが発生した時、設定したイベントアクションを実行します。[スケジュール動作]を選択して表示されるタイムテーブルには、現在のカメラ時間を基準とした日曜日から土曜日までの日付が表示されます。タイムテーブルでマウスをクリックしたりドラッグしてイベントアクション時間を設定することができます。設定されたイベントアクションスケジュールは、該当曜日と時間に繰り返して実行されます。
[1分]、[30分]、[1時]ボタンをクリックして、タイムビュー単位を変更することができます。[初期化]ボタンをクリックすると、設定されたイベントアクションスケジュールがすべて削除されます。カメラ時間を確認するか変更するためには、[Basic]>[日付＆時間]を参照してください。

アプリケーションイベント

[オープンプラットフォーム]でインストールしたアプリケーションで定義した規則でイベントを発生させることができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。アプリケーションイベントに対する設定は、[イベント]>[イベント設定]ページの[アプリケーションイベント]に同じく適用されます。

アプリケーションイベント

アプリケーションイベントを有効にするためには、[有効]を選択します。

イベントアクションの設定

FTP

アプリケーションイベントが発生した時、映像の画像をFTPサーバーに保存するには[有効]を選択します。FTPに対する詳細設定は、[イベント]>[FTP/E-mail]で行うことができます。

E-mail

アプリケーションイベントが発生した時、映像の画像をE-mailに伝送するには[有効]を選択します。E-mailに対する詳細設定は、[イベント]>[FTP/E-mail]で行うことができます。

イベント動作時間

アプリケーションイベントが発生した時、[イベントアクションの設定]で設定したイベントアクションが常時動作するように設定したり、スケジュール動作するように設定します。

常時動作

アプリケーションイベントが発生した時、設定したイベントアクションを常に実行します。

スケジュール動作

設定した時間にアプリケーションイベントが発生した時、設定したイベントアクションを実行します。[スケジュール動作]を選択して表示されるタイムテーブルには、現在のカメラ時間を基準とした日曜日から土曜日までの日付が表示されます。タイムテーブルでマウスをクリックしたりドラッグしてイベントアクション時間を設定することができます。設定されたイベントアクションスケジュールは、該当曜日と時間に繰り返して実行されます。
[1分]、[30分]、[1時]ボタンをクリックして、タイムビュー単位を変更することができます。[初期化]ボタンをクリックすると、設定されたイベントアクションスケジュールがすべて削除されます。カメラ時間を確認するか変更するためには、[Basic]>[日付&

時間]を参照してください。

モーション検知

ROI領域と除外エリアを設定した後、ユーザーが設定したエリア内でモーションを検知すると、モーション検知イベントを発生させることができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。モーション検知イベントに対する設定は、[イベント]>[イベント設定]ページの[モーション検知]に同じく適用されます。

モーション検知

モーション検知を有効にする

モーション検知イベントを有効にするためには、[モーション検知を有効にする]を選択します。

参考事項

- モーションのサイズ範囲に合わせてROI領域と除外エリアを設定して使用します。
- 対象物の形によってサイズ認識に誤差ある場合があります。
- 下記の場合には、モーション検知イベントの性能が低下されるか誤動作することがあります。
  - 対象物が画面の背景と似た明るさか色である場合
  - 画面の枠の周囲で発生する細かいモーションの場合
  - シーンチェンジ、急激な照明変更などの要因により画面の全体的な変化がランダムで持続的に発生する場合
  - 動く対象物がカメラに近づく場合
  - 任意の対象物がお互いに違う対象物を隠す場合
  - 対象物のモーションが速すぎる場合(同一の対象物は連続されたフレームの間に重なる部分が存在する必要があります。)
  - 直射光線、照明、車のヘッドライトなどの強い光による反射/濁り/影が発生する場合
  - ひどい雪、雨、風などがあるか日の入り/日の出などの場合
  - 同一位置に固定されている対象物のモーションが持続的に発生する場合
  - カメラに向かって近づいたり、カメラから遠くなる対象物のように画面での位置変化が少ないモーションの場合

含有エリア

ユーザーが指定するエリアをモーションROI領域に設定します。
ROI領域にモーションが検知される場合、イベント信号が発生します。

ROI領域設定

プレビュー画面からマウスで頂点4つを選択するか、マウスでドラッグして四角を描くとROI領域が設定されます。
ROI領域は最大8つまで設定することができ、エリア別にレベルと感度をそれぞれ設定することができます。

ROI領域変更

ROI領域の頂点を動かしてROI領域のサイズを変更することができます。
多角形を作るには、作られた四角の線を選択した後、表示されるプラス(+)記号をクリックして頂点を追加します。最大4つの点を追加して多角形を作ることができます。
ROI領域を移動するには、マウスで該当エリアをクリックしてドラッグします。

ROI領域削除

ROI領域を削除するには、該当エリアにマウス右側ボタンをクリックしてから削除確認で[OK]ボタンをクリックします。

エリア

ROI領域が追加されると、順番にエリア数字ボタン色が変更されます。数字ボタンをクリックすると、該当のROI領域がプレビュー画面で選択されます。

検知レベル

モーション検知の基準になるレベル値を設定します。[エリア]で設定したROI領域別にレベル値を設置することができます。設定したレベル値よりモーションが大きい場合、モーション検知イベントを発生させます。
またエリア別にモーションを検知するとモーショングラフが表示され、モーション検知イベントが発生した場合グラフ色が変更されます。

感度

エリア別にモーション検知感度を設定します。背景と対象物の区分が明確な環境では感度を低く設定し、暗くて背景と対象物の区分が明確ではない環境では感度を高く設定します。

最短時間

最短時間(秒)：検知した後、イベントを発生させるための最短時間を設定します。設定した時間より長くモーションが持続されるとき、イベントを発生させます

除外エリア

モーション検知を除外するエリアを設定することができます。

除外エリア設定

プレビュー画面からマウスで頂点4つを選択するか、マウスでドラッグして四角を描くと除外エリアが設定されます。
除外エリアは最大8まで設定することができます。

除外エリア変更

除外エリアの頂点を動かして除外エリアのサイズを変更することができます。
多角形を作るには、作られた四角の線を選択した後、表示されるプラス(+)記号をクリックすると頂点が追加されます。最大4つの点を追加して多角形を作ることができます。
除外エリアを移動するには、マウスで該当エリアをクリックしてドラッグします。

除外エリア削除

除外エリアを削除するには、該当エリアにマウス右側ボタンをクリックしてから削除確認で[OK]ボタンをクリックします。

エリア

除外エリアが追加されると、順番に[エリア]数字ボタン色が変更されます。数字ボタンをクリックすると、該当の除外エリアがプレビュー画面で選択されます。

一般

モーションを検知する対象物の最小、最大サイズを設定します。

サイズ

右下の頂点をクリックした後、マウスをドラッグしてサイズを変更することができます。サイズを変更すると、[サイズ]の[最小]値と[最大]値も変更されます。

> **参考事項**
> - ROI領域と除外エリアが同一か重なる場合、除外エリアの方が優先されます。
> - ユーザーが指定した最小サイズより小さいモーションと最大サイズより大きいモーションは検知しません。大小のノイズによる誤検知を避けるために設置環境に適する最小/最大検知サイズを設定してください。但し、同じ位置での同じモーションでも検知されるサイズは、多少差があるため偏差を考えて余裕を含み最小/最大サイズの上限を設定してください。

ハンドオーバ

ハンドオーバ

ハンドオーバー・レシーバカメラNo.を選択します。ハンドオーバー機能を使用したくない場合、[無効]を選択します。
ハンドオーバーは、モーション検知イベントが発生すると、レシーバカメラがすでに設定しておいたPTZプリセット位置に移動する機能です。ハンドオーバー・レシーバカメラは、[イベント] > [ハンドオーバー]メニューで設定することができます。

> **参考事項**
> - ROI領域別にハンドオーバー・レシーバカメラを設定することができます。ハンドオーバー機能は、ROI領域を先に設定してから使用することができます。

オーバーレイ

[有効]をクリックすると、検知された位置を映像にオーバーレイして表示します。

イベントアクションの設定

FTP

モーションイベントが発生した時、映像の画像をFTPサーバーに保存するには[有効]を選択します。FTPに対する詳細設定は、[イベント]>[FTP/E-mail]で行うことができます。

E-mail

モーション検知イベントが発生した時、映像の画像をE-mailに伝送するには[有効]を選択します。E-mailに対する詳細設定は、[イベント]>[FTP/E-mail]で行うことができます。

録画

モーション検知イベントが発生した時、SDカードまたはNASに映像を保存するには[有効]を選択します。保存に関する詳細設定は、[イベント]>[録画]で行うことができます。

アラーム出力

モーション検知イベントが発生した時、特定のアラームNo.でアラーム出力されるように設定することができます。アラーム出力No.を選択した後、アラームを出力したくない場合、[無効]を選択してアラームを出力したい場合、出力時間を選択します。[常時動作]を選択してユーザーがアラームを止めるまで出力し続けるようにしたり5、10、15秒まで出力するように設定することができます。アラーム出力に関する詳細設定は、[イベント]>[アラーム出力]で行うことができます。
カメラが対応する出力アラーム個数によって、アラーム出力オプションの表示が異なります。例えば出力されるアラームが2つなら、「アラーム出力1」、「アラーム出力2」とオプションが表示されます。

プリセットに移動

モーション検知イベントが発生した時、カメラビュー位置をすでに設定しておいたプリセットNo.に移動するように設定することができます。カメラ位置プリセットは、[PTZ]>[デジタルPTZ]や[外部PTZ]の[プリセット]で設定することができます。

イベント動作時間

モーション検知イベントが発生した時、[イベントアクションの設定]で設定したイベントアクションが常時動作するように設定したり、スケジュール動作するように設定します。

常時動作

モーション検知イベントが発生した時、設定したイベントアクションを常に実行します。

スケジュール動作

設定した時間にモーション検知イベントが発生した時、設定したイベントアクションを実行します。[スケジュール動作]を選択して表示されるタイムテーブルには、現在のカメラ時間を基準とした日曜日から土曜日までの日付が表示されます。タイムテーブルでマウスをクリックしたりドラッグしてイベントアクション時間を設定することができます。設定されたイベントアクションスケジュールは、該当曜日と時間に繰り返して実行されます。
[1分]、[30分]、[1時]ボタンをクリックして、タイムビュー単位を変更することができます。[初期化]ボタンをクリックすると、設定されたイベントアクションスケジュールがすべて削除されます。カメラ時間を確認するか変更するためには、[Basic]>[日付＆時間]を参照してください。

タンパリング検知

画面が隠されたりカメラの位置が変更される場合、タンパリング検知イベントを発生させることができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。タンパリング検知イベントに対する設定は、[イベント]>[イベント設定]ページの[タンパリング検知]に同じく適用されます。

タンパリング検知

タンパリング検知を有効にする

タンパリング検知イベントを有効にするためには、[タンパリング検知を有効にする]を選択します。

検知レベル

タンパリング検知の基準になるレベル値を設定します。設定したレベル値以上のタンパリングが検知されると、タンパリングイベントを発生させます。
またタンパリングを検知するとレベルを示すグラフが表示され、タンパリング検知イベントが発生した場合グラフ色が変更されます。

感度

感度を高く設定するほど、検知レベルのグラブが敏感に反応します。

最短時間(秒)

タンパリングを検知してイベントに発生させるまでの最短時間を設定します。タンパリングが最短時間の間に持続する場合のみ、タンパリング検知イベントが発生します。

ダークネス以外

急に照明が消えるなど、画面の明るさが急激に減少することをタンパリング検知イベントから除外するには、[有効]を選択します。
光が遮って暗くなったことを照明が消えて暗くなったと検知し、画面の明るさ変化に対する通知を除外することができます。

参考事項

- 背景がシンプルな環境と夜間および低照度環境では、検知性能が低くなることがあります。
- カメラがひどく揺れたり急激な照明変化がある場合、タンパリング検知機能が誤動作することがあります。
- タンパリングが発生した直後からタンパリング検知イベントが発生するまで、一定時間(最大5秒)がかかります。
- カメラのタンパリングが検知されると、一定時間(およそ5秒)安定化してから機能がリスタートされ、安定化が実行される間にはタンパリングを検知しません。
- イベントが間違えて発生し続ける場合、段階的にレベル値を下げてエラーを最小化することができます。
- 低い検知レベルを使うと、画面の細かい変化にも通知を受けることができるが、移動体や明るさ変化による誤検知が発生することがあります。

ハンドオーバ

ハンドオーバ

ハンドオーバー・レシーバカメラNo.を選択します。ハンドオーバー機能を使用したくない場合、[無効]を選択します。
ハンドオーバーは、タンパリングイベントが発生すると、レシーバカメラがすでに設定しておいたPTZプリセット位置に移動する機能です。ハンドオーバー・レシーバカメラは、[イベント] > [ハンドオーバー]メニューで設定することができます。

イベントアクションの設定

FTP

タンパリング検知イベントが発生した時、映像の画像をFTPサーバーに保存するには[有効]を選択します。FTPに対する詳細設定は、[イベント]>[FTP/E-mail]で行うことができます。

E-mail

タンパリング検知イベントが発生した時、映像の画像をE-mailに伝送するには[有効]を選択します。E-mailに対する詳細設定は、[イベント]>[FTP/E-mail]で行うことができます。

録画

タンパリング検知イベントが発生した時、SDカードまたはNASに映像を保存するには[有効]を選択します。保存に関する詳細設定は、[イベント]>[録画]で行うことができます。

アラーム出力

タンパリング検知イベントが発生した時、特定のアラームNo.でアラーム出力されるように設定することができます。アラーム出力No.を選択した後、アラームを出力したくない場合、[無効]を選択してアラームを出力したい場合、出力時間を選択します。[常時動作]を選択してユーザーがアラームを止めるまで出力し続けるようにしたり5、10、15秒まで出力するように設定することができます。アラーム出力に関する詳細設定は、[イベント]>[アラーム出力]で行うことができます。
カメラが対応する出力アラーム個数によって、アラーム出力オプションの表示が異なります。例えば出力されるアラームが2つなら、「アラーム出力1」、「アラーム出力2」とオプションが表示されます。

プリセットに移動

タンパリング検知イベントが発生した時、カメラビュー位置をすでに設定しておいたプリセットNo.に移動するように設定することができます。カメラ位置プリセットは、[PTZ]>[デジタルPTZ]や[外部PTZ]の[プリセット]で設定することができます。

イベント動作時間

タンパリング検知イベントが発生した時、[イベントアクションの設定]で設定したイベントアクションが常時動作するように設定したり、スケジュール動作するように設定します。

常時動作

タンパリング検知イベントが発生した時、設定したイベントアクションを常に実行します。

スケジュール動作

設定した時間にタンパリング検知イベントが発生した時、設定したイベントアクションを実行します。[スケジュール動作]を選択して表示されるタイムテーブルには、現在のカメラ時間を基準とした日曜日から土曜日までの日付が表示されます。タイムテーブルでマウスをクリックしたりドラッグしてイベントアクション時間を設定することができます。設定されたイベントアクションスケジュールは、該当曜日と時間に繰り返して実行されます。
[1分]、[30分]、[1時]ボタンをクリックして、タイムビュー単位を変更することができます。[初期化]ボタンをクリックすると、設定されたイベントアクションスケジュールがすべて削除されます。カメラ時間を確認するか変更するためには、[Basic]>[日付＆時間]を参照してください。

焦点ぼけ検知

カメラレンズのフォーカスがぼけることが検知される場合、焦点ぼけ検知イベントを発生させることができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。焦点ぼけ検知イベントに対する設定は、[イベント]>[イベント設定]ページの[焦点ぼけ検知]に同じく適用されます。

焦点ぼけ検知

焦点ぼけ検知を有効にする

焦点ぼけ検知イベントを有効にするためには、[焦点ぼけ検知を有効にする]を選択します。

検知レベル

焦点ぼけ検知の基準になるレベル値を設定します。設定したレベル値以上に焦点ぼけが検知されると、焦点ぼけ検知イベントを発生させます。
焦点ぼけを検知すると、焦点ぼけのレベルを示すグラフが表示され、焦点ぼけイベントが発生するとグラフ色が変更されます。

感度

感度を高く設定するほど、同じ映像に対するレベルグラフがより高く描かれます。

最短時間(秒)

焦点ぼけを検知してイベントに発生させるまでの最短時間を設定します。焦点ぼけ状況が最短時間の間に持続する場合のみ、焦点ぼけ検知イベントが発生します。

参考事項

- 焦点ぼけ検知に対するアラーム発生後、再度焦点ぼけ検知に対するアラームを受けるためには、必ず一度は安定状況に戻る必要があります。安定状況に戻る原因としては、下記の場合があります。
  - [焦点ぼけ検知を有効にする]をチェック解除した場合
  - 単一フォーカスが動作して映像の識別ができるレベルになった場合
  - 映像内の対象物がフォーカスの合う位置に移動して識別できるレベルになった場合
- 下記の場合には、焦点ぼけ検知性能が低下されるか誤動作が発生することがあります。
  - 背景がシンプルな監視環境と夜間、低照度環境
  - 急激な照明変更(例：屋内の電灯消灯)
  - レンズが隠されることまたは画面のほとんどを占める大きい対象物登場
  - カメラ位置変更などによるフォーカス対象変更

イベントアクションの設定

FTP

焦点ぼけ検知イベントが発生した時、映像の画像をFTPサーバーに保存するには[有効]を選択します。FTPに対する詳細設定は、[イベント]>[FTP/E-mail]で行うことができます。

E-mail

焦点ぼけ検知イベントが発生した時、映像の画像をE-mailに伝送するには[有効]を選択します。E-mailに対する詳細設定は、[イベント]>[FTP/E-mail]で行うことができます。

録画

焦点ぼけ検知イベントが発生した時、SDカードまたはNASに映像を保存するには[有効]を選択します。保存に関する詳細設定は、[イベント]>[録画]で行うことができます。

アラーム出力

焦点ぼけ検知イベントが発生した時、特定のアラームNo.でアラーム出力されるように設定することができます。アラーム出力No.を選択した後、アラームを出力したくない場合、[無効]を選択してアラームを出力したい場合、出力時間を選択します。[常時動作]を選択してユーザーがアラームを止めるまで出力し続けるようにしたり5、10、15秒まで出力するように設定することができます。アラーム出力に関する詳細設定は、[イベント]>[アラーム出力]で行うことができます。
カメラが対応する出力アラーム個数によって、アラーム出力オプションの表示が異なります。例えば出力されるアラームが2つなら、「アラーム出力1」、「アラーム出力2」とオプションが表示されます。

プリセットに移動

焦点ぼけ検知イベントが発生した時、カメラビュー位置をすでに設定しておいたプリセットNo.に移動するように設定することができます。カメラ位置プリセットは、[PTZ]>[デジタルPTZ]や[外部PTZ]の[プリセット]で設定することができます。

単一フォーカス

焦点ぼけ検知イベントが発生した時、単一フォーカスを実行させてフォーカスを自動に合わせます。イベント発生時、単一フォーカスは一回のみ実行されます。

イベント動作時間

焦点ぼけ検知イベントが発生した時、[イベントアクションの設定]で設定したイベントアクションが常時動作するように設定したり、スケジュール動作するように設定します。

常時動作

焦点ぼけ検知イベントが発生した時、設定したイベントアクションを常に実行します。

スケジュール動作

設定した時間に焦点ぼけ検知イベントが発生した時、設定したイベントアクションを実行します。[スケジュール動作]を選択して表示されるタイムテーブルには、現在のカメラ時間を基準とした日曜日から土曜日までの日付が表示されます。タイムテーブル

でマウスをクリックしたりドラッグしてイベントアクション時間を設定することができます。設定されたイベントアクションスケジュールは、該当曜日と時間に繰り返して実行されます。
[1分]、[30分]、[1時]ボタンをクリックして、タイムビュー単位を変更することができます。[初期化]ボタンをクリックすると、設定されたイベントアクションスケジュールがすべて削除されます。カメラ時間を確認するか変更するためには、[Basic]>[日付＆時間]を参照してください。

霧検知

霧がかかって映像識別に困る天気に霧検知イベントを発生させ、設定によって曇り除去機能を実行して映像を補正することができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。霧検知イベントに対する設定は、[イベント]>[イベント設定]ページの[霧検知]に同じく適用されます。

霧検知

霧検知を有効にする

霧検知イベントを有効にするためには、[霧検知を有効にする]を選択します。

検知レベル

現在、霧のレベルがレベルグラフに表示されます。現在、レベルが設定された検知レベルより高い場合、アラームが発生します。検知レベル値が小さいほど、霧によって映像が微細にぼけても検知することができます。

感度

感度を高く設定するほど、同じ映像に対するレベルグラフがより高く描かれます。

最短時間(秒)

霧を検知してイベントに発生させるまでの最短時間を設定します。検知レベル以上のレベル状況が設定された「最短時間」の間、連続で持続されるとアラームが発生します。

参考事項

- 霧検知に対するアラーム発生後、再度霧検知に対するアラームを受けるためには、必ず一度は安定状況に戻る必要があります。曇り除去動作による映像改善は、安定状況として認識されません。安定状況に戻る原因としては、下記の場合があります。
  - [霧検知を有効にする]をチェック解除した場合
  - 霧または煙が消えて映像の識別ができるレベルになった場合
- 下記の場合には、霧検知性能が低下されるか誤動作が発生することがあります。
  - 背景がシンプルな監視環境と夜間、低照度環境
  - 急激な照明変更(例：屋内の電灯消灯)
  - レンズが隠されることまたは画面のほとんどを占める大きい対象物登場
  - カメラ位置変更などによるフォーカス対象変更

イベントアクションの設定

FTP

霧検知イベントが発生した時、映像の画像をFTPサーバーに保存するには[有効]を選択します。FTPに対する詳細設定は、[イベント]>[FTP/E-mail]で行うことができます。

E-mail

霧検知イベントが発生した時、映像の画像をE-mailに伝送するには[有効]を選択します。E-mailに対する詳細設定は、[イベント]>[FTP/E-mail]で行うことができます。

録画

霧検知イベントが発生した時、SDカードまたはNASに映像を保存するには[有効]を選択します。保存に関する詳細設定は、[イベント]>[録画]で行うことができます。

アラーム出力

霧検知イベントが発生した時、特定のアラームNo.でアラーム出力されるように設定することができます。アラーム出力No.を選択した後、アラームを出力したくない場合、[無効]を選択してアラームを出力したい場合、出力時間を選択します。[常時動作]を選択してユーザーがアラームを止めるまで出力し続けるようにしたり5、10、15秒まで出力するように設定することができます。アラーム出力に関する詳細設定は、[イベント]>[アラーム出力]で行うことができます。
カメラが対応する出力アラーム個数によって、アラーム出力オプションの表示が異なります。例えば出力されるアラームが2つなら、「アラーム出力1」、「アラーム出力2」とオプションが表示されます。

プリセットに移動

霧検知イベントが発生した時、カメラビュー位置をすでに設定しておいたプリセットNo.に移動するように設定することができます。カメラ位置プリセットは、[PTZ]>[デジタルPTZ]や[外部PTZ]の[プリセット]で設定することができます。

曇り除去

霧検知イベントが発生した時、曇り除去を実行するには[有効]を選択します。

イベント動作時間

霧検知イベントが発生した時、[イベントアクションの設定]で設定したイベントアクションが常時動作するように設定したり、スケジュール動作するように設定します。

常時動作

霧検知イベントが発生した時、設定したイベントアクションを常に実行します。

スケジュール動作

設定した時間に霧検知イベントが発生した時、設定したイベントアクションを実行します。[スケジュール動作]を選択して表示されるタイムテーブルには、現在のカメラ時間を基準とした日曜日から土曜日までの日付が表示されます。タイムテーブルでマウスをクリックしたりドラッグしてイベントアクション時間を設定することができます。設定されたイベントアクションスケジュールは、該当曜日と時間に繰り返して実行されます。
[1分]、[30分]、[1時]ボタンをクリックして、タイムビュー単位を変更することができます。[初期化]ボタンをクリックすると、設定されたイベントアクションスケジュールがすべて削除されます。カメラ時間を確認するか変更するためには、[Basic]>[日付＆時間]を参照してください。

顔検出

カメラで映像撮影中にユーザーが指定したエリアで顔が検知される場合、顔検知イベントを発生させることができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。顔検知イベントに対する設定は、[イベント]>[イベント設定]ページの[顔検知]に同じく適用されます。

顔検出

顔検知を有効にする

顔検知イベントを有効にするためには、[顔検知を有効にする]を選択します。

エリア

ROI領域設定

[顔検知を有効にする]を選択すると、四角のオレンジ色の枠にROI領域が表示されます。四角の真ん中に最小顔検知サイズが顔の画像で表示されますが、顔の画像より大きい顔のみ検知します。

ROI領域変更

設定したROI領域の右下にある頂点を動かしてROI領域のサイズを変更することができます。
ROI領域を移動させるためには、マウスで該当エリアをクリックしてドラッグします。

感度

顔検知イベントの感度を設定します。感度が高いほど、細かく顔検知をすることができます。

モーションベースの動的領域

モーション分析によって顔検知エリアが自動に変更されるようにするには、[有効]を選択します。[有効]を選択しない場合、設定したROI領域でしか顔を検知しません。
ROI領域を設定すると、設定したエリア内でのみ顔が検知され、遠くの小さい顔は検知効率が落ちる場合があります。「モーションベースの動的領域」機能を使うと、画面全体でモーションを検知する時に顔検知のためのエリアが自動に変更され顔検知の効率が向上されます。

参考事項

- モーションベースの動的領域機能を使用時、モーションが発生するエリアのみ顔検知エリアに指定されます。
- 複数のエリアで顔を検知するために検知エリアが能動的に変更されるため、持続的な顔検知は不可能です。

除外エリア

除外エリア設定

プレビュー画面からマウスで頂点4つを選択するか、マウスでドラッグして四角を描くと除外エリアが設定されます。
除外エリアは最大8つまで設定することができます。

除外エリア変更

設定した除外エリアの頂点を動かして除外エリアのサイズを変更することができます。
多角形を作るには、作られた四角の線を選択した後、表示されるプラス(+)記号をクリックすると頂点が追加されます。最大4つの点を追加して多角形を作ることができます。
除外エリアを移動するには、マウスで該当エリアをクリックしてドラッグします。

除外エリア削除

除外エリアを削除するには、該当エリアにマウス右側ボタンをクリックしてから削除確認で[OK]ボタンをクリックします。

エリア

除外エリアが追加されると、順番に数字ボタン色が変更されます。数字ボタンをクリックすると、該当の除外エリアがプレビュー画面で選択されます。

参考事項

- ROI領域と除外エリアが同一か重なる場合、除外エリアの方が優先されます。

オーバーレイ

[有効]をクリックすると、検知された位置を映像にオーバーレイして表示します。

イベントアクションの設定

FTP

顔検知イベントが発生した時、映像の画像をFTPサーバーに保存するには[有効]を選択します。FTPに対する詳細設定は、[イベント]>[FTP/E-mail]で行うことができます。

E-mail

顔検知イベントが発生した時、映像の画像をE-mailに伝送するには[有効]を選択します。E-mailに対する詳細設定は、[イベント]>[FTP/E-mail]で行うことができます。

録画

顔検知イベントが発生した時、SDカードまたはNASに映像を保存するには[有効]を選択します。保存に関する詳細設定は、[イベント]>[録画]で行うことができます。

アラーム出力

顔検知イベントが発生した時、特定のアラームNo.でアラーム出力されるように設定することができます。アラーム出力No.を選択した後、アラームを出力したくない場合、[無効]を選択してアラームを出力したい場合、出力時間を選択します。[常時動作]を選択してユーザーがアラームを止めるまで出力し続けるようにしたり5、10、15秒まで出力するように設定することができます。アラーム出力に関する詳細設定は、[イベント]>[アラーム出力]で行うことができます。

カメラが対応する出力アラーム個数によって、アラーム出力オプションの表示が異なります。例えば出力されるアラームが2つなら、「アラーム出力1」、「アラーム出力2」とオプションが表示されます。

プリセットに移動

顔検知イベントが発生した時、カメラビュー位置をすでに設定しておいたプリセットNo.に移動するように設定することができます。カメラ位置プリセットは、[PTZ]>[デジタルPTZ]や[外部PTZ]の[プリセット]で設定することができます。

イベント動作時間

顔検知のイベントアクションの動作時間を設定します。[イベントアクションの設定]で設定したイベントアクションが常時動作するように設定したり、スケジュール動作するように設定します。

常時動作

顔検知イベントが発生した時、設定したイベントアクションを常に実行します。

スケジュール動作

設定した時間に顔検知イベントが発生した時、設定したイベントアクションを実行します。[スケジュール動作]を選択して表示されるタイムテーブルには、現在のカメラ時間を基準とした日曜日から土曜日までの日付が表示されます。タイムテーブルでマウスをクリックしたりドラッグしてイベントアクション時間を設定することができます。設定されたイベントアクションスケジュールは、該当曜日と時間に繰り返して実行されます。
[1分]、[30分]、[1時]ボタンをクリックして、タイムビュー単位を変更することができます。[初期化]ボタンをクリックすると、設定されたイベントアクションスケジュールがすべて削除されます。カメラ時間を確認するか変更するためには、[Basic]>[日付＆時間]を参照してください。

IVA

ビデオ映像分析に対する規則を設定して、イベント規則条件を満足するモーションを検知すると、IVA(Intelligent Video Analytics、インテリジェントビデオ解析)イベントを発生させることができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。IVAイベントに対する設定は、[イベント]>[イベント設定]ページの[IVA]に同じく適用されます。

IVA(インテリジェントビデオ解析)

IVAを有効にする

IVAイベントを有効にするためには、[IVAを有効にする]を選択します。

バーチャルライン

ユーザーが設定したバーチャルラインと方向を基準に対象物が通過することを検知します。

バーチャルライン設定

カメラ映像画面の設定したい位置でラインの開始点と端点をクリックすると、バーチャルラインが設定され[ライン]の数字ボタン色が変更されます。バーチャルラインの真ん中にある矢印をクリックすると、方向をAからB、BからA、両方向に変更したり[カテゴリー]の[方向]でお望みの方向を選択することもできます。バーチャルラインは最大8つまで設定することができます。

バーチャルライン変更

設定したバーチャルラインの頂点を動かしてバーチャルラインのサイズを変更することができます。バーチャルラインをマウスにクリック、ドラッグしてバーチャルラインの位置を変更することができます。

バーチャルライン削除

バーチャルラインを削除するには、該当エリアにマウス右側ボタンをクリックしてから削除確認で[OK]ボタンをクリックします。

ライン入力

バーチャルラインが追加されると、順番に[ライン]の数字ボタン色が変更されます。数字ボタンをクリックして無効にすると、該当のバーチャルラインはプレビュー画面に表示されません。もう一度、数字ボタンをクリックするとバーチャルラインが再度表示されます。

カテゴリー

- 通過：設定した規則によってバーチャルラインを通過する対象物を検知した時、イベントを発生させるためにはチェックボックスを選択する必要があります。
- 方向：対象物がバーチャルラインを通過する方向を設定します。

バーチャルエリア

ユーザーがバーチャルエリアを設定して該当のエリアに侵入、進入、出る、出現(消滅)、うろつくの映像規則を適用して、対象物のモーションを検知します。

バーチャルエリア設定

プレビュー画面からマウスで頂点4つを選択するか、マウスでドラッグして四角を描くとROI領域が設定されます。
バーチャルエリアは最大8つまで設定することができ、エリア別にビデオ映像分析の規則を設定することができます。

バーチャルエリア変更

設定したバーチャルエリアの頂点を動かしてバーチャルエリアのサイズを変更することができます。
多角形を作るには、作られた四角の線を選択した後、表示されるプラス(+)記号をクリックして頂点を追加します。最大4つの点を追加して多角形を作ることができます。
設定したバーチャルエリアを移動するには、マウスで該当エリアをクリックしてドラッグします。線をクリックした後、表示された頂点を移動して多角形のバーチャルエリアを設定することができます。

バーチャルエリア削除

バーチャルエリアを削除するには、該当エリアにマウス右側ボタンをクリックしてから削除確認で[OK]ボタンをクリックします。

エリア

バーチャルエリアが追加されると、順番に[エリア]の数字ボタン色が変更されます。数字ボタンをクリックして無効にすると、該当のバーチャルエリアはプレビュー画面に表示されません。もう一度、数字ボタンをクリックするとバーチャルエリアが再度表示されます。

カテゴリー

バーチャルエリア別に適用する規則を設定することができます。

- 侵入する：設定したエリア内部に動く対象物を検知すると、イベントを発生させます。
  - 最短時間(秒)：検知した後、イベントを発生させるための最短時間を設定します。設定した時間より長くモーションが持続されるとき、イベントを発生させます。
- 進入：動く対象物がユーザーの指定したエリアの外部から内部に入る時、イベントを発生させます。
- 出る：動く対象物がユーザーの指定したエリアの内部から外部に出る時、イベントを発生させます。
- 出現(消滅)：ユーザーが指定したエリア内部に存在しなかった対象物がエリアラインを通過せずにエリア内部に現れ一定時間とどまったり、エリア内部に存在してた対象物が消えるとイベントを発生させます。
  - 最短時間(秒)：出現(消滅)を検知するための対象物の最短持続時間を設定します。検知エリアで実行時間の間、存在してた対象物が消えると消滅に検知し、実行時間の間に存在しなかった対象物が現れると出現と検知します。
- うろつく：設定した検知エリア内でうろつくモーションを検知すると、イベントを発生させます。
  - 最短時間(秒)：うろつく対象物を検知してイベントを発生させるための最短時間を設定します。設定した時間より長くうろつく対象物を検知すると、イベントを発生させます。

参考事項

- うろつく検知は他のIVAイベント検知と共に使用する場合、単独で使用することより多少性能が低下することがあります。

除外エリア

バーチャルラインとバーチャルエリアで分析規則を適用する時、モーションを検知しない位置に除外エリアを設定します。

除外エリア設定

プレビュー画面からマウスで頂点4つを選択するか、マウスでドラッグして四角を描くと除外エリアが設定されます。
除外エリアは最大8つまで設定することができます。

除外エリア変更

設定した除外エリアの頂点を動かして除外エリアのサイズを変更することができます。
多角形を作るには、作られた四角の線を選択した後、表示されるプラス(+)記号をクリックすると頂点が追加されます。最大4つの点を追加して多角形を作ることができます。
除外エリアを選択してマウスをドラッグすると、除外エリアの位置を移動することができます。

除外エリア削除

除外エリアを削除するには、該当エリアにマウス右側ボタンをクリックしてから削除確認で[OK]ボタンをクリックします。

エリア

除外エリアが追加されると、順番に[エリア]の数字ボタン色が変更されます。数字ボタンをクリックして無効にすると、該当の除外エリアはプレビュー画面に選択されます。

一般

バーチャルラインとバーチャルエリアに共通に適用される感度と検知する対象物の最小、最大サイズを設定します。
使用環境によって検知の正確度を上げ、誤検知を最小化するために適用することができる設定です。

感度

バーチャルラインとバーチャルエリアに対するモーション検知の感度を設定します。背景と対象物の区分が明確な環境では感度を低く設定し、暗くて背景と対象物の区分が明確ではない環境では感度を高く設定します。

サイズ

バーチャルラインとバーチャルエリアでモーションを検知する対象物の最小、最大サイズを設定します。頂点をクリックした後、マウスをドラッグしてサイズを変更することができます。サイズを変更すると、[サイズ]の[最小]値と[最大]値も変更されます。

参考事項

- ROI領域と除外エリアが同一か重なる場合、除外エリアの方が優先されます。
- ユーザーが指定した最小サイズより小さいモーションと最大サイズより大きいモーションは検知しません。大小のノイズによる誤検知を避けるために設置環境に適する最小/最大検知サイズを設定してください。但し、同じ位置での同じモーションでも検知されるサイズは、多少差があるため偏差を考えて余裕を含み最小/最大サイズの上限を設定してください。

ハンドオーバ

ハンドオーバ

ハンドオーバー・レシーバカメラNo.を選択します。ハンドオーバー機能を使用したくない場合、[無効]を選択します。
ハンドオーバーは、IVAイベントが発生すると、レシーバカメラがすでに設定しておいたPTZプリセット位置に移動する機能です。ハンドオーバー・レシーバカメラは、[イベント] > [ハンドオーバー]メニューで設定することができます。

参考事項

- バーチャルラインとROI領域別にハンドオーバー・レシーバカメラを設定することができます。ハンドオーバー機能は、バーチャルラインやROI領域を先に設定してから使用することができます。

オーバーレイ

[有効]をクリックすると、検知された位置を映像にオーバーレイして表示します。

イベントアクションの設定

FTP

IVAイベントが発生した時、映像の画像をFTPサーバーに保存するには[有効]を選択します。FTPに対する詳細設定は、[イベント]>[FTP/E-mail]で行うことができます。

E-mail

IVAイベントが発生した時、映像の画像をE-mailに伝送するには[有効]を選択します。E-mailに対する詳細設定は、[イベント]>[FTP/E-mail]で行うことができます。

録画

IVAイベントが発生した時、SDカードまたはNASに映像を保存するには[有効]を選択します。保存に関する詳細設定は、[イベント]>[録画]で行うことができます。

アラーム出力

IVAイベントが発生した時、特定のアラームNo.でアラーム出力されるように設定することができます。アラーム出力No.を選択した後、アラームを出力したくない場合、[無効]を選択してアラームを出力したい場合、出力時間を選択します。[常時動作]を選択してユーザーがアラームを止めるまで出力し続けるようにしたり5、10、15秒まで出力するように設定することができます。アラーム出力に関する詳細設定は、[イベント]>[アラーム出力]で行うことができます。
カメラが対応する出力アラーム個数によって、アラーム出力オプションの表示が異なります。例えば出力されるアラームが2つなら、「アラーム出力1」、「アラーム出力2」とオプションが表示されます。

プリセットに移動

IVAイベントが発生した時、カメラビュー位置をすでに設定しておいたプリセットNo.に移動するように設定することができます。カメラ位置プリセットは、[PTZ]>[デジタルPTZ]や[外部PTZ]の[プリセット]で設定することができます。

イベント動作時間

IVAイベントアクションの動作時間を設定します。[イベントアクションの設定]で設定したイベントアクションが常時動作するように設定したり、スケジュール動作するように設定します。

常時動作

IVAイベントが発生した時、設定したイベントアクションを常に実行します。

スケジュール動作

設定した時間にIVAイベントが発生した時、設定したイベントアクションを実行します。[スケジュール動作]を選択して表示されるタイムテーブルには、現在のカメラ時間を基準とした日曜日から土曜日までの日付が表示されます。タイムテーブルでマウスをクリックしたりドラッグしてイベントアクション時間を設定することができます。設定されたイベントアクションスケジュールは、該当曜日と時間に繰り返して実行されます。
[1分]、[30分]、[1時]ボタンをクリックして、タイムビュー単位を変更することができます。[初期化]ボタンをクリックすると、設定されたイベントアクションスケジュールがすべて削除されます。カメラ時間を確認するか変更するためには、[Basic]>[日付＆時間]を参照してください。

音声検知

カメラで映像撮影中に設定したレベル以上の音声が検知される場合、音声検知イベントを発生させることができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。音声検知イベントに対する設定は、[イベント]>[イベント設定]ページの[音声検知]に同じく適用されます。

音声検知

音声検知を有効にする

音声検知イベントを有効にするためには、[音声検知を有効にする]を選択します。

検知レベル

音声検知の基準になるレベル値を設定します。設定したレベル値以上の音声が検知されると、音声検知イベントを発生させます。
音声を検知するとグラフが表示され、音声検知イベントが発生するとグラフ色が変更されます。

参考事項

- 検知レベルが低いほど、小さい音の変化を検知します。
- 音声検知のレベル値は、入力データを1～100に正規化して閾値レベル以上の値を入力すると、検知するように設計されデシベル(dB)値とは関係ありません。
- [映像&音声]>[音声設定]>[入力ソース]からマイクを選択した後、十分に音が入力できるように設定しなければ、音声検知機能が正常的に動作しません。
- 音声のGain値は、[映像&音声]>[音声設定]>[Gain]で設定することができます。

イベントアクションの設定

FTP

音声検知イベントが発生した時、映像の画像をFTPサーバーに保存するには[有効]を選択します。FTPに対する詳細設定は、[イベント]>[FTP/E-mail]で行うことができます。

E-mail

音声検知イベントが発生した時、映像の画像をE-mailに伝送するには[有効]を選択します。E-mailに対する詳細設定は、[イベント]>[FTP/E-mail]で行うことができます。

録画

音声検知イベントが発生した時、SDカードまたはNASに映像を保存するには[有効]を選択します。保存に関する詳細設定は、[イベント]>[録画]で行うことができます。

アラーム出力

音声検知イベントが発生した時、特定のアラームNo.でアラーム出力されるように設定することができます。アラーム出力No.を選択した後、アラームを出力したくない場合、[無効]を選択してアラームを出力したい場合、出力時間を選択します。[常時動作]を選択してユーザーがアラームを止めるまで出力し続けるようにしたり5、10、15秒まで出力するように設定することができます。アラーム出力に関する詳細設定は、[イベント]>[アラーム出力]で行うことができます。
カメラが対応する出力アラーム個数によって、アラーム出力オプションの表示が異なります。例えば出力されるアラームが2つなら、「アラーム出力1」、「アラーム出力2」とオプションが表示されます。

プリセットに移動

音声検知イベントが発生した時、カメラビュー位置をすでに設定しておいたプリセット位置No.に移動するように設定することができます。カメラ位置プリセットは、[PTZ]>[デジタルPTZ]や[外部PTZ]の[プリセット]で設定することができます。

イベント動作時間

音声検知イベントが発生した時、[イベントアクションの設定]で設定したイベントアクションが常時動作するように設定したり、スケジュール動作するように設定します。

常時動作

音声検知イベントが発生した時、設定したイベントアクションを常に実行します。

スケジュール動作

設定した時間に音声検知イベントが発生した時、設定したイベントアクションを実行します。[スケジュール動作]を選択して表示されるタイムテーブルには、現在のカメラ時間を基準とした日曜日から土曜日までの日付が表示されます。タイムテーブルでマウスをクリックしたりドラッグしてイベントアクション時間を設定することができます。設定されたイベントアクションスケジュールは、該当曜日と時間に繰り返して実行されます。
[1分]、[30分]、[1時]ボタンをクリックして、タイムビュー単位を変更することができます。[初期化]ボタンをクリックすると、設定されたイベントアクションスケジュールがすべて削除されます。カメラ時間を確認するか変更するためには、[Basic]>[日付＆時間]を参照してください。

サウンド分類

カメラ映像の撮影中に検知される音の種類を分類してサウンド分類イベントに発生させることができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。サウンド分類イベントに対する設定は、[イベント]>[イベント設定]ページの[サウンド分類]に同じく適用されます。

サウンド分類

サウンド分類を有効にする

サウンド分類イベントを有効にするためには、[サウンド分類を有効にする]を選択します。

設定

ノイズフィルター

ノイズ除去フィルターを使うには、[有効]を選択します。周囲環境のノイズが55 dB ~ 65 dB以上でひどい場合、[ノイズフィルター]を有効にします。環境によってノイズ削減機能を有効にして元のサウンドが削減され、サウンド分類性能が低下するか誤動作が発生することがあります。静かな環境でノイズ削減フィルターを有効にすると、サウンド分類性能が低下することがあります。

分類レベル

サウンド分類するオーディオエネルギーのレベルを設定します。入力オーディオに対するエネルギーのレベル値が右側から左側へ周期的に更新されながらエリアに描かれます。設定したレベル以上のオーディオのみ、サウンド分類を適用します。つまり、入力されるオーディオのエネルギーがベースラインより高い場合のみ、サウンドに分類します。ベースラインが低くなると、サウンド分類対象のデータが多くなって誤動作が多くなる確率が上がります。ベースラインが高くなると、サウンド分類対象のデータが少なくなって未探索が多くなる確率が上がります。周囲のノイズレベルに適する設定にしてください。

カテゴリー

音の種類を検知してイベントに発生させます。検知する音の種類を選択することも重複に選択することもできます。

- 叫び声：大人の男/女および子供の叫び声&大声など、急に人が大声を出す音を検知してイベントに発生させます。
- 銃声：連続に出ない銃声を検知してイベントに発生させます。
- 爆発音：破壊作用にいきなり爆発する音を検知してイベントに発生させます。
- ガラスが割れる音：ガラスの割れる音を検知してイベントに発生させます。

参考事項

- [映像&音声]>[音声設定]>[音声入力]で[ソース]オプションを[ライン]に設定した場合、サウンド分類機能は動作しません。
- [映像&音声]>[音声設定]>[音声入力]で[Gain]を4 ~ 6の間で設定することをお勧めします。

- [映像&音声]>[音声設定]>[音声入力]で[ソース]オプションを[外部マイク]に設定した場合、マイク推奨仕様は下記のどおりです。マイク仕様が合わない場合、サウンド分類機能が低下されることがあります。
  - 周波数範囲：40 ~ 16,000Hz
  - インピーダンス：1,500 Ω
  - 感度： -40±3 dB (7.1~14.1 mV)
- 下記の場合には、サウンド分類性能が低下されるか誤動作が発生することがあります。
  - 銃声には単発性の銃声のみカテゴリーに含むため、マシンガンのように連続で音がする場合
  - ノイズと対象サウンドが区分されないぐらいに大きい場合
  - 2つ以上の違うサウンドが同時に入力で入る場合
  - カメラ位置変更などによるフォーカス対象変更
  - 静かな環境でノイズ除去機能を使用してサウンド分類を適用する場合
  - カメラ近くに(1メートル以内)拍手、叫び声などがある場合
  - 飛行機の音、サイレンの音など、サウンド分類のカテゴリーではないサウンドが急に大きく発生する場合

イベントアクションの設定

FTP

サウンド分類イベントが発生した時、映像の画像をFTPサーバーに保存するには[有効]を選択します。FTPに対する詳細設定は、[イベント]>[FTP/E-mail]で行うことができます。

E-mail

サウンド分類イベントが発生した時、映像の画像をE-mailに伝送するには[有効]を選択します。E-mailに対する詳細設定は、[イベント]>[FTP/E-mail]で行うことができます。

録画

サウンド分類イベントが発生した時、SDカードまたはNASに映像を保存するには[有効]を選択します。保存に関する詳細設定は、[イベント]>[録画]で行うことができます。

アラーム出力

サウンド分類イベントが発生した時、特定のアラームNo.でアラーム出力されるように設定することができます。アラーム出力No.を選択した後、アラームを出力したくない場合、[無効]を選択してアラームを出力したい場合、出力時間を選択します。[常時動作]を選択してユーザーがアラームを止めるまで出力し続けるようにしたり5、10、15秒まで出力するように設定することができます。アラーム出力に関する詳細設定は、[イベント]>[アラーム出力]で行うことができます。
カメラが対応する出力アラーム個数によって、アラーム出力オプションの表示が異なります。例えば出力されるアラームが2つなら、「アラーム出力1」、「アラーム出力2」とオプションが表示されます。

プリセットに移動

サウンド分類イベントが発生した時、カメラビュー位置をすでに設定しておいたプリセットNo.に移動するように設定することができます。カメラ位置プリセットは、[PTZ]>[デジタルPTZ]や[外部PTZ]の[プリセット]で設定することができます。

ハンドオーバ

ハンドオーバ

ハンドオーバー・レシーバカメラNo.を選択します。ハンドオーバー機能を使用したくない場合、[無効]を選択します。
ハンドオーバーは、サウンド分類イベントが発生すると、レシーバカメラがすでに設定しておいたPTZプリセット位置に移動する機能です。ハンドオーバー・レシーバカメラは、[イベント] > [ハンドオーバー]メニューで設定することができます。

イベント動作時間

サウンド分類イベントが発生した時、[イベントアクションの設定]で設定したイベントアクションが常時動作するように設定したり、スケジュール動作するように設定します。

常時動作

サウンド分類イベントが発生した時、設定したイベントアクションを常に実行します。

スケジュール動作

設定した時間にサウンド分類イベントが発生した時、設定したイベントアクションを実行します。[スケジュール動作]を選択して表示されるタイムテーブルには、現在のカメラ時間を基準とした日曜日から土曜日までの日付が表示されます。タイムテーブルでマウスをクリックしたりドラッグしてイベントアクション時間を設定することができます。設定されたイベントアクションスケジュールは、該当曜日と時間に繰り返して実行されます。
[1分]、[30分]、[1時]ボタンをクリックして、タイムビュー単位を変更することができます。[初期化]ボタンをクリックすると、設定されたイベントアクションスケジュールがすべて削除されます。カメラ時間を確認するか変更するためには、[Basic]>[日付＆時間]を参照してください。

ビデオprofile

ビデオprofileを追加したり削除してProfile設定を変更することができます。ビデオ解像度、フレームレート、Codecなどを「ビデオprofile」にすでに設定した後、環境と状況によってユーザーが望むProfileに変更して映像をストリームしたり再生することができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックして設定を適用してください。

PTZモードの選択

[外部PTZ]を選択すると、RS-485やRS-422ポートに接続されたレシーバーでカメラPTZを制御することができます。ウェブビューアーの左側にあるメニューツリーに[PTZ]>[外部PTZ]メニューが生成されます。
[デジタルPTZ]を選択すると、カメラPTZをデジタルで制御することになります。ウェブビューアーの左側にあるメニューツリーに[PTZ]>[デジタルPTZ]メニューが生成されます。「デジタルPTZ Profile」が適用された場合のみデジタルPTZモードが動作され、この時に解像度とビットレートが制限されます。

ビデオプロファイル接続ポリシー

Profile設定が変更された時、既存のProfileに映像を出力し続けるか変更されたProfileに映像を出力し続けるかを設定することができます。
[プロファイルの設定変更後も、接続を維持する]を選択すると、Profile設定を変更しても既存のProfile設定に映像を出力し、再度ウェブビューアーにアクセスした時、変更されたProfileに映像を出力します。Profile設定を変更して再度ウェブビューアーにアクセスするまでは、[ライブ]画面にオレンジ色の枠が表示されます。[プロファイルの設定変更後も、接続を維持する]を選択しないと、Profile設定を変更した時にすぐ変更されたProfileに映像が出力されます。

ビデオprofile

製品の使用環境と状況によってビデオのProfileを選択することができます。初期値に提供されるProfileの他に新しいProfileを追加したり削除することができます。Profile別にCodec、Profileタイプ、解像度、フレームレート、最大ビットレート、目標ビットレート、ビットレート制御、マルチキャストなどを設定することができます。

Profileリスト

初期値に提供されるProfileのリストとユーザーが追加したProfileのリスト両方とも表示されます。

ビデオprofile追加

1. [追加]ボタンをクリックします。Profileリストで新しい項目が追加されます。
2. [名前]フィールドにProfile名を入力します。Profileリストに入力した名前が表示されます。
3. [Codec]、[Profileタイプ]、[解像度]など、Profileの詳細を設定します。
4. ページの下にある[適用]ボタンをクリックします。
5. 確認ポップアップが表示されたら、[OK]ボタンをクリックします。新しいProfileが追加されます。

ビデオprofileの設定変更

1. Profileリストで詳細設定を変更するProfileを選択します。
2. [Codec]、[プロファイルタイプ]、[解像度]など、Profileの詳細設定を変更します。
3. ページの下にある[適用]ボタンをクリックします。
4. 確認ポップアップが表示されたら、[OK]ボタンをクリックします。選択したProfileの設定が変更されます。

ビデオprofile削除

1. Profileリストで削除するProfileを選択します。
2. [削除]ボタンをクリックします。
3. 確認ポップアップが表示されたら、[OK]ボタンをクリックします。選択したProfileが削除されます。

名前

Profileリストで選択したProfile名が表示されます。新規でProfileを生成する時、Profile名を入力することができます。

Codec

Profileに適用するCodecを選択します。選択したCodecタイプによって、Profile設定の詳細が異なります。

プロファイルタイプ

適用するProfileタイプを選択します。選択したProfileタイプは、Profileリストの[タイプ]カラムに表示されます。選択したCodecタイプによって表示される設定項目が異なります。

- 基本プロファイル：カメラの映像をライブにストリームする時、適用される基本Profileです。Profileリストの[タイプ]に「Default」と表示されます。
- E-mail/FTP profile：イベントが発生すると、キャプチャー画面をE-mailとFTPサーバーに伝送する時に使用するビデオProfileです。Profileリストの[タイプ]カラムに「Event」と表示されます。 [Codec]を「MJPEG」に設定した場合のみ、E-mail/FTP profileオプションが表示されます。
- 録画Profile：SDカードまたはNASに映像を録画する時、適用するProfileです。Profileリストの[タイプ]カラムに「Record」と表示されます。
- フレームレート固定プロファイル：映像のフレームレートを一定レベルで保障する時、適用するProfileです。[Codec]を[H.264]または[H.265]に設定した場合のみ、「フレームレート固定プロファイル」オプションが表示されます。

音声入力

カメラが内蔵マイクを持っているか外部マイクを接続した場合、カメラの外部音が映像に入力されるように設定することができます。
[ライブ]画面のマイクとスピーカー機能を有効にするには、[音声入力]を[有効]に選択する必要があります。

ATCモード

ATC(Auto Transmit Control)モードは、ネットワーク帯域幅の変化量によって映像の属性を変更して伝送量を調整します。伝送量の調整方法は、ATCモードによって異なります。

- 未使用：ネットワーク帯域幅が変化してもビデオ伝送量を一定維持します。
- 有効 - フレームレート制御：ネットワーク帯域幅が変化される場合、フレームレートを変更して伝送するデータ量を調整します。
- On - 圧縮制御：ネットワーク帯域幅が変化される場合、伝送するデータの圧縮率を変更して伝送するデータ量を調整します。圧縮調整する場合、画質が低くなることがあります。
- On - イベント(MD)：モーション検知イベントが設定されている場合、使用できるモードです。モーション検知イベントが発生してネットワーク帯域幅が変化する場合、フレームレートを変更してデータ量を調整します。モーションが検知されない場合、最小限のフレームだけを出力して帯域幅使用を節約します。

感度

ネットワーク帯域幅変化量の反映速度を調整します。ATC感度が最高の場合に反映速度が最も早く、最低の場合に反映速度が最も遅いです。
ATC感度は、[ATCモード]を[有効 - フレームレート制御]、[On - 圧縮制御]に選択する時のみ有効になります。

上限

ネットワーク帯域幅変化量によってビデオ伝送量を変更する時、ある程度まで属性を変更するかATCモードの上限値を設定します。ATCモードを使用しなかった時を100%と仮定すると、10～50%に値を設定することができ、設定された値の以下にはビデオ伝送量は変更されません。
この時、伝送量を減らし過ぎると画面が点滅する場合があるため、本設定値を調整して限界設定値を調整します。
ATC上限は、[ATCモード]を[有効 - フレームレート制御]、[On - 圧縮制御]に選択する時のみ有効になります。

参考事項

- ATCに対応するカメラで構成された環境でのみ、ATCを有効にすることをお勧めします。
- ネットワーク帯域幅の変化量が急激な環境ではATC感度を[最低]に設定してください。
- ネットワーク環境が不安定の場合、画面が点滅することがあります。

クロップエンコーディング

クロップエンコーディングは、全画面で選択したエリアだけを切って[Profile設定]で設定された解像度に合わせて出力します。クロップエンコーディング設定エリアより小さいサイズの解像度のみ設定することができます。現在、設定中のProfileにクロップエンコーディングを適用するには、[有効]を選択します。

トリミング領域設定

1. クロップエンコーディングを[有効]に設定した後、[エリアを設定]ボタンをクリックします。
2. [トリミング設定領域]のプレビュー画面でマウスをドラッグしてエリアを設定します。エリアを16:9比や4:3比に合わせて設定するには、それぞれ[16:9]、[4:3]を選択し、比率に関係ないエリアを選択するには、[手動]を選択します。
3. エリア設定を完了したら、[OK]ボタンをクリックします。

参考事項

- [トリミング設定領域]でユーザーが任意で範囲を指定した場合、ユーザーが指定した範囲で出力解像度と最も近い解像度に出力します。
- [映像&音声]>[カメラ設定]>[特別設定]>[DIS]設定を変更すると、トリミング設定領域が異なる場合があります。DIS設定を変更する時、クロップエンコーディングのエリアを再設定してください。

Profile設定

現在、設定中のビデオprofileの詳細を設定します。

解像度

カメラ映像の解像度を設定します。

参考事項

- 高解像度の映像を問題なくストリームするためには、Chromeでウェブビューアーにアクセスすることをお勧めします。

フレームレート

1秒当たりのフレーム数を設定します。
[映像&音声]>[カメラ設定]>[センサー]で選択したフレームレート値によって、設定できるフレームレートの範囲が異なります。

最大ビットレート

[ビットレート制御]が[VBR]の場合、映像の最大ビットレートを設定します。

ターゲットビットレート

[ビットレート制御]が[CBR]の場合、伝送する映像データの量を設定したターゲットビットレートに固定して映像を伝送します。

詳細

Profileの[Codec]を[H.264]や[H.265]に設定した場合には、すべての詳細設定項目が表示されます。Profileの[Codec]を[MJPEG]に選択した場合は、[エンコーディング優先順位]項目のみ表示されます。

ビットレート制御

映像データ量をどう調整するか設定することができます。

- CBR：固定ビットレート(Constant Bitrate)は、フルフレームのデータを一定サイズに固定して伝送するタイプです。CBRを選択すると、ターゲットビットレートを設定して伝送するデータのサイズを設定します。CBRの場合、固定的なデータサイズをもつため、全体的なシステムのデータサイズを予測しやすくて安定的にシステムを運用することができます。
- VBR：可変ビットレート(Variable Bitrate)は、フレームのデータサイズを固定せずに最大ビットレート内で映像を伝送するタイプです。VBRは、画質を維持しながら

ストレージスペースの容量や帯域幅を効率的に使用することができるが、映像が急に複雑になったり大きいモーションがある場合ネットワークに負担がかかります。

参考事項

- ビットレート制御を「CBR(固定ビットレート)」に設定してから画質優先モードを選択した場合、画面の複雑度によって設定されたビットレートで最大限に画質を保障するために実際伝送されるフレームレートが設定されたフレームレートと異なる場合があります。

エンコーディング優先順位

映像データ量がターゲットビットレートの値を超える時、フレームレートと画質中に何を優先順位としてエンコーディングするか設定します。
Profileの[Codec]を[H.264]や[H.265]に選択した場合、[フレームレート]と[圧縮]の中で選択することができます。[フレームレート]を優先順位に設定すると、フレームレートを最大限に保障するが画質は低くなることがあります。逆に[圧縮]を優先順位に設定すると、画質は保障するが抜け落ちるフレームが発生して映像が切れたり不自然になることがあります。Profileの[Codec]を[H.264]や[H.265]に選択した場合、[エンコーディング優先順位]は[ビットレート制御]を[CBR]に設定した場合のみ有効となります。
Profileの[Codec]が[MJPEG]の場合、[フレームレート]と[ビットレート]の中で選択することができます。

GOV長

GOV(Group of Video)はH.264/H.265のビデオ圧縮のための映像フレームの集合でIフレームから次のIフレームまでのフレーム集合を意味します。GOV内には、IフレームとPフレームという2タイプのフレームがあります。Iフレームは圧縮の基本となるフレームでキーフレームとも呼ばれ、完全な一枚の画像データを持つ独立的なフレームです。Pフレームは前のフレームを基準に変更された部分の情報のみを持っているため、映像データ量が少ないです。したがって、GOV長が長いほどIフレーム数は少ないため映像データ量も少なくなるし、GOV長が短いほどIフレームが多くなるため映像データ量も多くなります。GOV長の最大値は[Profile設定]の[フレームレート]によって異なります。
H.264 CodecやH.265 Codecで録画ファイルを設定した場合、GOV長はframerate/2になります。

Profile

ProfileのCodecが[H.264]の場合のみ、メニューが有効となります。Profileは圧縮する時に使用する様々な圧縮技術を組み合わせた集合とも言えます。ハンファテックウィンのカメラで対応するProfileは[Baseline]、[Main]、[High]です。BaselineでHighに行くほど圧縮性能が高くなって画質が良くなるが、圧縮する時と圧縮を解凍する時にシステムのリソースが多く使用され再生デバイスに負荷がかかります。

エントロピー符号化

エントロピー符号化は、シンタックス(Syntax)の統計を用いた可変長コーディングで無損失の圧縮タイプです。
CAVLC (Context Adaptive Variable Length Coding)とCABAC (Context Adaptive Binary Arithmetic Coding)の2タイプを提供します。但し、Baseline Profileの場合にはCAVLCタイプのみ使用できます。

- CABAC：圧縮率が高いが、データの処理過程が複雑でシステムリソースを多く使用します。

- CAVLC：CABACに比べて圧縮率が低いが、データの処理過程がシンプルでシステムリソースを少なく使用します。

Smart codec

Smart codecの使用有無を設定します。Smart codecは、映像でユーザーが好むエリアは圧縮率を減らして高画質で出力し、その他の部分は圧縮率を上げて標準画質に出力して全体の映像データサイズを減らすハンファテックウィンの独自技術です。Smart codecは[ビットレート制御]が[CBR]の時のみ有効になります。
Smart codecのROI領域は、[映像&音声]>[Smart codec]で設定することができます。

ダイナミックGOV

ダイナミックGOV機能を現在設定中のProfileに適用するには、[有効]を選択します。
ダイナミックGOVは、映像状況によってGOV長が 最小GOV長の設定値から最大ダイナミックGOVの設定値まで自動に変更される機能です。ほとんどモーションがない映像では GOVが [ダイナミックGOV]でユーザーが設定した値に動作して全体映像のビットレートが短縮されます。モーションを検知すると、 その直後にIフレームが出力され、この後モーションがなくなるまでGOVがGOV長の設定値に動作することになります。
ダイナミックGOVは[ビットレート制御]が[VBR]の時のみ有効になります。

- 映像にモーションがない時に適用する最大GOV長値を入力します。入力値の範囲は[GOV長]の横に表示されます。[GOV長]に入力した値が最小値になり、最大値は480で[Profile設定]の[フレームレート]によって異なります。

参考事項

- ワイズストリーム機能を使用する場合、ダイナミックGOVとダイナミックFPS機能を使用するとワイズストリームの性能が最適化されます。ワイズストリームは[映像&音声] > [ワイズストリーム]メニューで設定することができます。

ダイナミックFPS

ダイナミックFPS機能を現在設定中のProfileに適用するには、[有効]を選択します。
ダイナミックFPS(Dynamic FPS)は、映像状況によって最小FPS設定値からフレームレートの設定値まで自動に変更される機能です。ほとんどモーションがない映像では、FPSが最小FPSの設定値に動作することになって全体映像のビットレートが短くなります。モーションを検知すると、FPS値を増加させて動作します。
ダイナミックFPSは[Codec]を[H.264]や[H.265]に選択して[ビットレート制御]が[VBR]の時のみ有効になります。

最小FPS

ダイナミックFPSが動作する時、適用する最小FPS値を入力します。

参考事項

- ワイズストリーム機能を使用する場合、ダイナミックGOVとダイナミックFPS機能を使用するとワイズストリームの性能が最適化されます。ワイズストリームは[映像&音声] > [ワイズストリーム]メニューで設定することができます。

マルチキャスト

マルチキャストは、一台のカメラで発生した映像を接続された数台のデバイスに送る時に使用します。現在、設定中のProfileでRTSP (Real Time Streaming Protocol)プロトコルの使用有無を設定して詳細を入力します。

マルチキャスト(RTSP)

RTSPプロトコルを使用して映像を伝送するには、[有効]を選択します。

IPアドレス

IPv4網でアクセスできるIPv4アドレスを入力します。マルチキャストアドレスを224.0.0.0 ~ 224.0.0.255に設定する場合、特定環境でマルチキャストができなくなる場合があります。問題が発生すると、マルチキャストアドレスを変更して使用してください。

ポート

映像伝送を制御するポートを設定します。マルチキャストRTSPポートの範囲は1024から65534で、範囲の中で偶数にしてください。(但し、3702ポートは使用できません。)

TTL

RTSPパケットのTTLを設定することができます。TTL値は0から255までの数のみ入力することができます。

製品Info

製品の型名、製造番号の確認やデバイス名、位置、詳細情報、言語を設定することができます。設定を完了すると、ページの下にある[適用]ボタンをクリックしてください。

製品Info

型名

使用している製品の型名です。型名は確認だけ可能で変更することはできません。

製造番号

使用している製品の製造番号です。製造番号は確認だけ可能で変更することはできません。

デバイス名

使用している製品のデバイス名を入力することができます。カメラを数台設置した場合には、カメラを区分するためにデバイス名を別々に入力することをお勧めします。

位置

使用している製品の設置位置を入力することができます。カメラを数台設置した場合には、設置位置を区分するために設置位置を別々に入力することをお勧めします。

詳細情報

使用している製品に対する詳細情報を入力することができます。設置日時、画面が表示する場所など他の必要情報に対して入力します。

メモ

使用している製品に対する詳細情報を入力することができます。詳細情報部分に書けなかった他の必要情報に対して入力します。

言語

使用している製品の言語を選択することができます。言語を選択して適用をクリックすると、すべてのUIが該当言語に変更されます。

参考事項

- 「デバイス名」項目は#'"&+:<>=\%*を外した特殊文字、韓国語、ローマ字の大文字&小文字、数字を入力することができます。最大8文字まで入力することができます。
- 「位置」、「詳細情報」、「メモ」項目はローマ字&数字、特殊文字~`!@$^()_-|{}[];,./?とスペースだけ入力することができます。最大32文字まで入力できます。

アップグレード/再起動

使用する製品のソフトウェアをアップグレードしたり出荷条件初期化することができます。また設定をバックアップしてリストアしたりリスタートすることができます。

アップグレード

新しいバージョンのファームウェアが配布されたら現在使用している製品のソフトウェアをアップグレードすることができます。

ソフトウェア

使用している製品のソフトウェアバージョンです。ソフトウェアバージョンは確認だけ可能で変更することはできません。
[詳細情報]ボタンをクリックすると、ソフトウェアに適用されたISPバージョンやSUNAPIバージョンを含めたソフトウェア詳細情報を確認することができます。

ソフトウェア・アップグレード

使用している製品のソフトウェアをアップグレードすることができます。ソフトウェアをアップグレードするには、[...]ボタンをクリックします。アップグレードファイルを選択した後、[開く]ボタンをクリックします。[アップグレード]ボタンをクリックすると、アップグレードを開始します。アップグレードの進行状況を%で確認することができます。アップグレードが完了すると、カメラが再起動されて自動にアクセスが切断されます。ウェブビューアーに再アクセスする必要があります。

参考事項

- アップグレードは最大10分ぐらいかかります。アップグレードをしている間には、強制にプログラムを終了しないでください。正しくアップグレードされない場合があります。
- ソフトウェアをアップグレードした後、再アクセスする時にブラウザのキャッシュをすべて削除しないとウェブビューアー機能が正しく動作しないことがあります。
- 最新のソフトウェアバージョンは、ハンファテックウィンのウェブサイト(http://www.hanwha-security.com)でダウンロードすることができます。

出荷条件初期化

システム設定を製品を購入した当時の設定に初期化することができます。[初期化]ボタンをクリックいした後、確認ポップアップで[OK]ボタンをクリックすると出荷条件初期化を行います。(但し、ログは初期化されません。)

出荷条件初期化を行うとき、ネットワーク設定&設置されたオープンプラットフォームを除外して他の設定だけを出荷条件初期化するためには、[ネットワーク設定&オープンプラットフォーム設定維持]を選択します。出荷条件初期化を進行すると、カメラとのアクセスが切断されます。ウェブビューアーに初回アクセスする時にパスワードを再設定する必要があります。

[ネットワーク設定&オープンプラットフォーム設定維持]を選択せずにカメラを出荷条件初期化すると、IP接続タイプがDHCPに設定されます。この時、DHCPサーバーを見つけないとカメラのIPアドレスは192.168.1.100に自動変更されます。

設定バックアップ&リストア

現在、カメラ設定をバックアップして保存した後にお望みの設定にリストアすることができます。お望みの設定のバックアップファイルを複数生成した後、製品の使用用途または環境によってお望みの設定にリストアして使用することができます。

バックアップ

[バックアップ]ボタンをクリックすると、「型名Config.bin」ファイルタイプにバックアップファイルが生成されます。

リストア

[リストア]ボタンをクリックすると、リストアするバックアップファイルを選択するポップアップが表示されます。バックアップファイルを選択して[開く]ボタンを押すと、該当リストアファイルを基準に設定がリストアされます。

参考事項

- 設定をリストアすると、カメラとのアクセスが自動に切断されウェブビューアーに再アクセスする必要があります。
- 使用している製品と同じ型名ではない違う型名のバックアップファイルを読み込んでリストアに使用する場合、機能差で製品が誤動作することがあります。他型名のバックアップファイルをリストアに使用せずに手動で設定を変更します。

リスタート

カメラのシステムをリスタートすることができます。[リスタート]ボタンをクリックした後、確認ポップアップが表示されたら[確認]ボタンをクリックします。カメラがリスタートされ、ウェブビューアーが閉じられます。ウェブビューアーに再アクセスする必要があります。

ログ

カメラと関連されたログを確認することができます。カメラアクセス、システム変動事項、発生したイベント情報をログで確認することができます。ログタイプ別にログ情報をバックアップすることができます。

参考事項

一つのページで確認できる最大ログ数は15件です。
直近に発生したログから確認することができます。
各々のログは最大1000件まで保存されます。
保存されたログが1000件を超えると、最も古いログから削除してから新しいログを保存します。

アクセスログ

アクセスしたアカウント別にログイン、ログアウト情報を確認することができます。

ログタイプ

カメラにアクセスしたアカウントとログイン、ログアウトした日付と時間情報を確認することができます。Allを選択すると、アクセスしたすべてのIDのログイン、ログアウト有無、日付＆時間、詳細情報を確認することができます。

エクスポート

選択したログタイプをテキストファイルにバックアップすることができます。アクセスログをバックアップするには、[エクスポート]ボタンをクリックします。ログファイル名は、カメラ型名_ログタイプ_バックアップした日付時間情報に表示されます。

システムログ

システム変動事項に対して日付＆時間と詳細情報を確認することができます。

ログタイプ

カメラシステム設定変更情報を日付、時間と共に確認することができます。Allを選択すると、すべてのシステム変動事項に対して日付＆時間と詳細情報を確認することができます。

エクスポート

選択したログタイプをテキストファイルにバックアップすることができます。システムログをバックアップするには、[エクスポート]ボタンをクリックします。ログファイル名は、カメラ型名_ログタイプ_バックアップした日付時間情報に表示されます。

イベントログ

システムで発生したイベントに対して日付＆時間と詳細情報を確認することができます。

ログタイプ

選択したイベントの発生日付、時間と詳細情報を確認することができます。Allを選択すると、システムで発生したすべてのイベントに対して日付＆時間と詳細情報を確認することができます。

エクスポート

選択したログタイプをテキストファイルにバックアップすることができます。イベントログをバックアップするには、[エクスポート]ボタンをクリックします。ログファイル名は、カメラ型名_ログタイプ_バックアップした日付時間情報に表示されます。

オープンプラットフォーム

カメラに追加でアプリケーションをインストールすると、既存の機能の他にも追加でインストールしたアプリケーションの機能を使用することができます。

オープンプラットフォーム

オープンプラットフォーム設置

1. [...]ボタンをクリックしてアプリケーションを選択した後、[開く]ボタンをクリックします。
2. [設置]ボタンをクリックします。アプリケーションをインストールしたら「インストール済み」というメッセージが表示され、インストールしたアプリケーションの情報がリストに表示されます。

No.

アプリケーションをインストールした手順にNo.が与えられます。

アプリケーション名

アプリケーション名、インストール日時、バージョンが表示されます。

- アンインストール：現在動作しているか、インストールしたアプリケーションを削除します。
- アプリケーションへ：各アプリケーションで提供する画面に移動します。

状況

アプリケーションの実行状況を表示します。
アプリケーションが動作中だと「実行中」が表示され、アプリケーションが動作しないと「終了」が表示されます。

- 開始：インストールしたアプリケーションを実行します。
- 中止：実行中のアプリケーションを中止します。
- 実行状況：現在、実行中のアプリケーションの資源占有率、生成したスレッドカウント&継続時間などを表示します。アプリケーションが実行中の時のみ有効になります。

セットアップ

アプリケーションの実行優先順位とオートラン有無を設定します。設定した後、[適用]ボタンをクリックしてください。

- 優先順位：実行中のアプリケーション間の優先順位を設定します。全体カメラの資源占有率(カメラのメインタスク&アプリケーション含み)が高くなる場合、実行中のアプリケーションを強制終了します。この時、ユーザーが「低」に設定したアプリケーション順に強制終了します。
- オートラン：[有効]を選択すると、カメラ電源&メインタスクを実行する時にアプリケーションが自動に実行されます。

アプリケーションマネージャ

現在、カメラで動作中のアプリケーションの資源占有率を表示します。

- アプリケーション名：アプリケーション名です。
- メモリ利用(%)：各アプリケーションのメモリ占有率です。
- CPU利用(%)：各アプリケーションのCPU占有率です。
- スレッドカウント：各アプリケーションが生成するスレッドカウントです。
- 継続時間：各アプリケーションの合計継続時間です。
- 動作：各アプリケーションの動作状況です。アプリケーションの実行を中止するには、[アプリ終了]をクリックします。
- 総合利用：カメラで現在使用中の全体資源占有率(カメラのメインタスク&アプリケーション含み)です。

参考事項

- アプリケーションのインストール&使用に関するお問い合わせは、ハンファテックウィン開発者サイト(https://step.hanwha-security.com/kor_EN/Default.aspx (https://step.hanwha-security.com/kor_EN/Default.aspx))にお問い合わせください。

Head Office

6, Pangyo-ro 319 beon-gil, Bundang-gu, Seongnam-si,
Gyeonggi-do, 463-400 Rep. of KOREA
Tel: +82.70.7147.8753 Fax: +82.31.8018.3740
www.hanwha-security.com

Hanwha Techwin America

500 Frank W. Burr Blvd. Suite 43 Teaneck, NJ 07666
Toll Free +1.877.213.1222 Direct +1.201.325.6920
Fax +1.201.373.0124
www.hanwha-security.com

Hanwha Techwin Europe

Heriot House, Heriot Road, Chertsey, Surrey, KT16 9DT, United Kingdom
Tel +44.1932.57.8100 Fax +44.1932.57.8101
www.hanwha-security.eu